

一 遺跡の位置と環境

用見崎遺跡は奄美諸島中最大の島、奄美大島にあり、鹿児島県大島郡用字見崎に所在する（第1図）。奄美諸島は北緯27°02′から28°23′、東経128°26′から130°23′に位置し、喜界島・奄美大島・徳之島・沖永良部島・与論島を含む島嶼群である。島々の基盤は喜界島を除いて古期岩帯に属し、古い堆積岩と花崗岩を主体とする。黒潮本流が奄美諸島の近海を北上しているため島々を洗う波の海水温は高く、海岸にはサンゴ礁地形がみられる。

所在地

奄美大島は黒潮の影響もあって気候は海洋性亜熱帯気候の特徴を示す。月平均気温は最高の7月で28℃、最低の1月でも14.3℃であり、年較差は12℃前後と年間の気温の変化が乏しい。夏季には南東の、冬季には北北東の季節風が卓越し、夏季から秋季にかけては台風の来襲も多い。奄美諸島においては、地形性降雨⁽¹⁾の影響を受けやすい高峻な島では降水量が多く、低平な島、とくに隆起サンゴ礁よりなる島では降水量も少なく、河川も乏しいといえる。奄美大島は北の笠利半島が低平であるほかは山がちで、湯湾岳（694m）を最高峰に標高400m以上の山地が約20ある。奄美大島の中心都市、名瀬市も山に囲まれており、年降水量は3039mmと高い数値を記録する。一方、石灰岩地域では地下に浸透しやすいこともあり、本州島のように河川による土砂供給量はあまり多いとはいえず、沖積平野に乏しい。このため、大部分の集落は小さな河川のデルタとその周辺に立地し、現在知られている遺跡の多くも同様の分布傾向をみせる。海浜にはアコウ・ガジュマルなどの常緑広葉樹のほかアダン・ヒルガオ等の群落がみられ、山地においてはスタジイのほかタブノキ・イスノキなどの常緑広葉樹林が繁茂する。しかし、近年森林開発による伐採が進み、自然植生が残されているのは湯湾岳・名瀬市大川上流域の金作原一帯・住用村住用川上流の神屋一帯など一部の地域のみであり、他はリュウキュウマツ群落を主とする二次林でおおわれている。動物では、奄美大島にのみ生息するアマミヤマシギ・奄美大島と徳之島にのみ生息するアマミノクロウサギ・ルリカケス⁽²⁾が知られ、本州島とは異なる生物環境が窺える。

海洋性亜熱帯気候

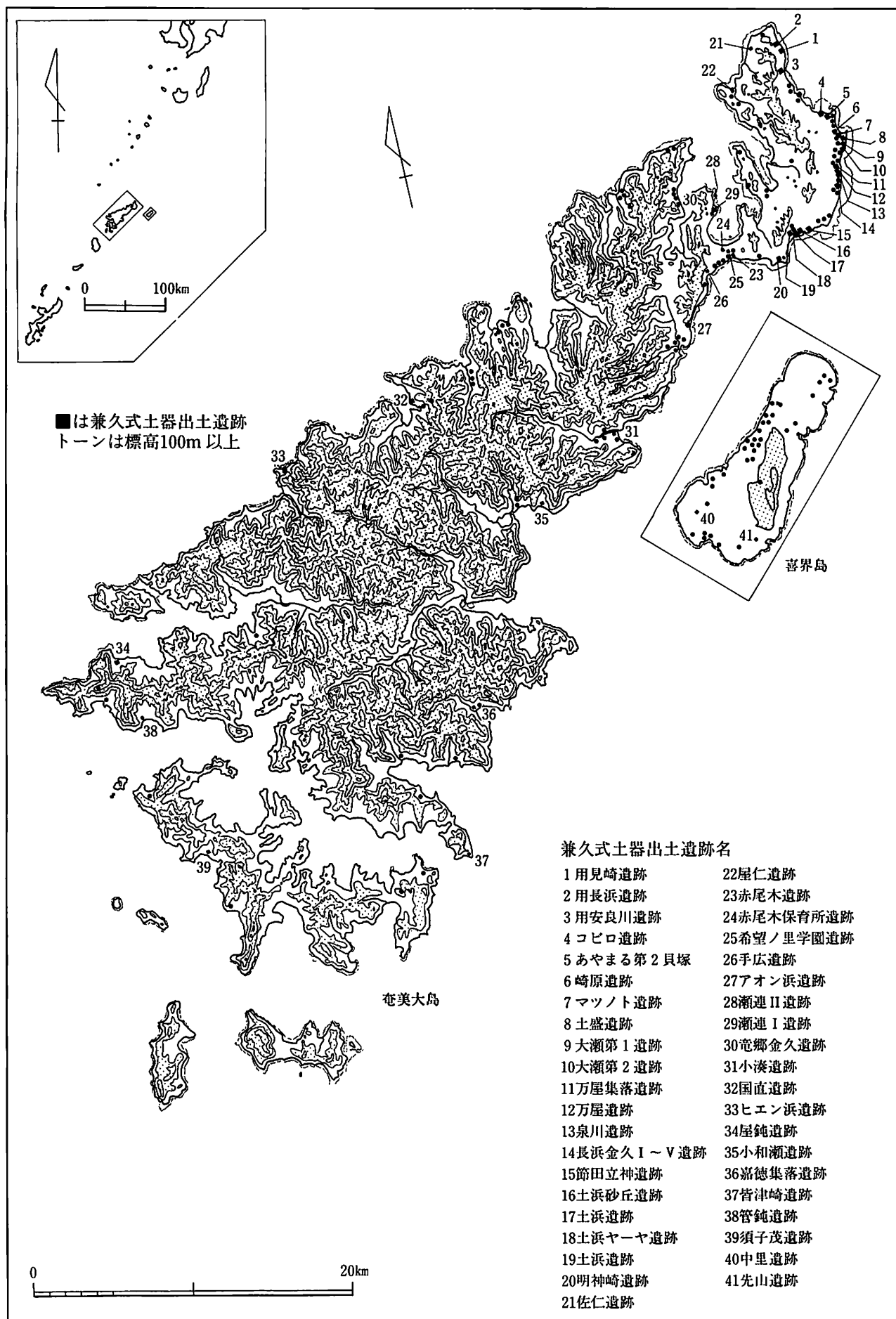
植生

生物環境

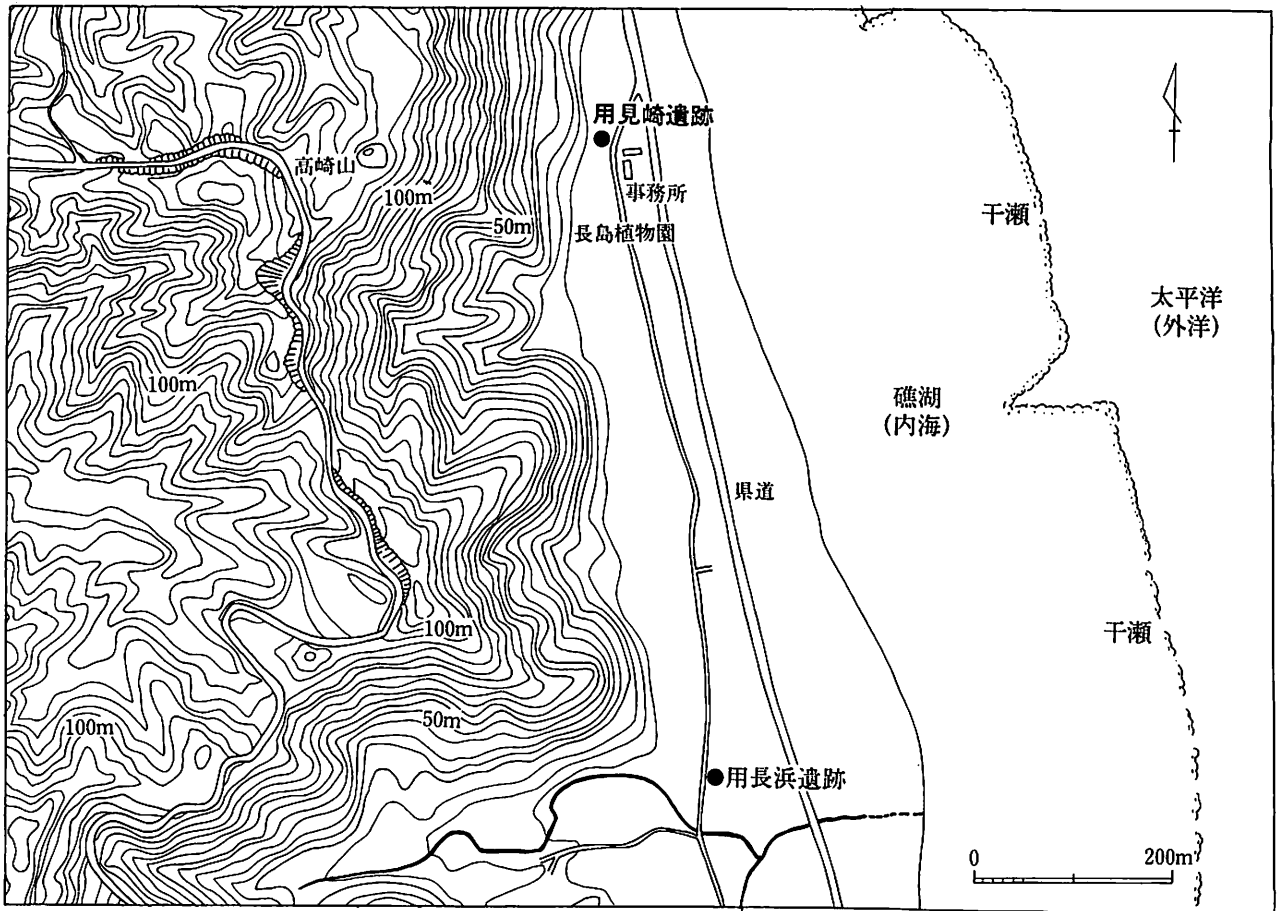
用見崎遺跡の所在する笠利半島は、奄美大島の最北端に位置する南北約15km、東西約4.5kmの細い半島である。笠利半島は高岳（183.6m）をはじめとして、大刈山、淀山などからなる南北に走る低い山地によって東西に分断され、東側と西側では地理的にも歴史的にもかなり異なった様相を示す。西側は山地から急激に海に落ち込み、海岸線は入り組んでいる。深い入江に面した砂丘上にはサウチ遺跡（縄文後期併行期から弥生時代前・中期併行期）、鯨浜遺跡（古墳時代併行期から歴史時代併行期）などが知られるが、現在までのところ3遺跡が知られるにすぎない。一方、用見崎遺跡の位置する東側は、奄美大島で最も多くの遺跡が集中する地域であり、現在その数は100を超える。山裾から海岸まで、ゆるやかな幅1kmから2kmの丘陵がつづき、海岸砂丘の起伏を経て海に至る地形が南北に連続している。海岸にはサンゴ礁が発達し、その沖合は島の東西を分かれて北上した黒潮の合流点でもあることから、良い漁場となっている。海岸線に接した砂丘地には、多くの遺跡がみられ、特に新砂丘と旧砂丘が重なって発達している。和野集落からあやまる岬にかけては、各時代の遺跡が密な分布をみせる。砂丘はその形成時期によって旧砂丘と新砂丘とに分けられ、現在の県道が両砂丘の接触面に相当す

笠利半島

歴史環境



第1図 周辺主要遺跡分布図



第2図 遺跡周辺地勢図

る。一般に、前者には縄文時代併行期の遺跡が立地し、後者には弥生時代併行期から古墳時代併行期の遺跡が立地する⁽³⁾。旧石器時代の遺物を出土した喜子川遺跡と、古墳時代併行期の遺跡で、兼久式土器を出土したマツノト遺跡も県道を挟んで対面している⁽⁴⁾。

用見崎遺跡は笠利半島の最北端に位置し、山裾が海に最も迫った地点に位置する(第2図)。遺跡立地遺跡から海岸線までの距離は100mから140mである。遺跡は急傾斜で遺跡の西側を画す高崎山に接し、傾斜地が平坦面へ移行した標高10m前後の新砂丘上に立地している。南北約1kmにわたって続く砂丘には遺物の連続した散布が見られ、用長浜遺跡も同一砂丘上に立地する。以前は遺跡中央を南北に走る溝には、近くの水源地から北方向へ水が流れていたと思われるが、5年前に排水管が埋設されたために、現在のように北端で切られて埋められている。用海岸のサンゴ礁は、陸側からの岩盤が海中にまで延びている。このため、他のサンゴ礁と比較すると汀線から干瀬までの距離はやや短く、礁湖も極めて浅く、喜界島や沖永良部島とは特徴を異にしている。

(花田・村山)

註

- (1) 地形の影響で引き起こされる降雨。湿った気流が山地斜面に吹きつけ、斜面を強制上昇することによって降る雨や、海洋から陸地に気流が吹き込むときに見られる雨量の増加(海岸効果)などがある。
- (2) アマミヤマシギ以下、国指定特別天然記念物となっている。
- (3) 旭 慶男他『長浜金久遺跡(第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡)』鹿児島県教育委員会、1987年。
- (4) 長野真一他『奄美地区埋蔵文化財分布調査報告書Ⅲ』鹿児島県教育委員会、1991年。

二 調査の概要

1. 調査に至るまでの経過

用見崎遺跡が立地する砂丘は、用集落の人々によって古くから田畑に利用されており、また集落の南を横切る安良川周辺から土器が採集されることはかねてからよく知られていた。

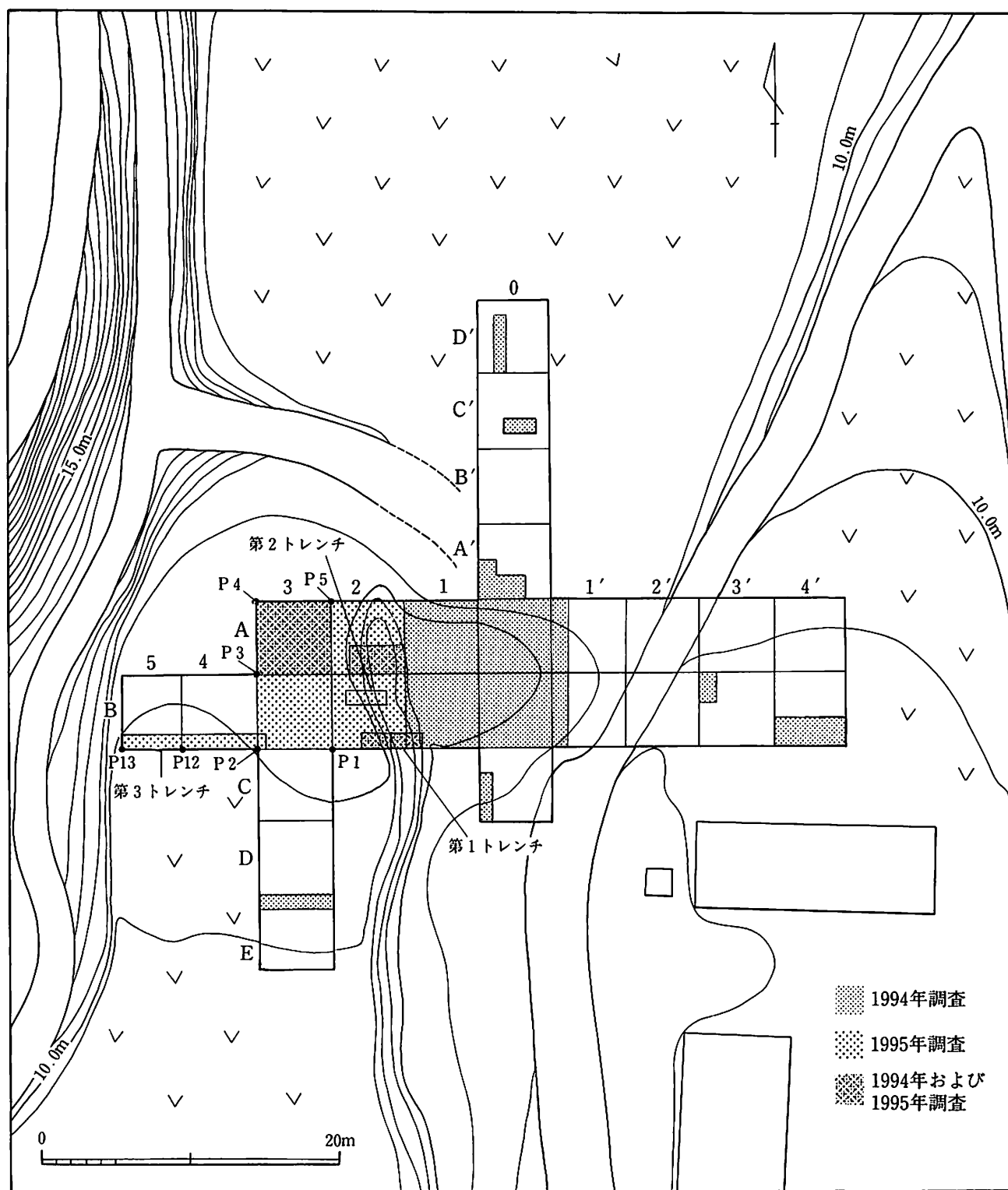
用安良川遺跡 白木原和美氏は1971年に「大島郡笠利町の先史学的所見」を発表し、その中で現在の用見崎遺跡を「用安良川遺跡」と呼称した⁽¹⁾。白木原氏は遺跡採集の土器などについての報告もおこなっており、遺物の分布状況から遺跡の範囲について言及している。1977年には中山清美氏が「用安良川遺跡」を「用遺跡」として紹介し、採集された土器が単一の型式に属することを指摘した⁽²⁾。また、笠利町教育委員会による分布調査の結果、この砂丘一帯に小規模ながら遺物の散布する地点が複数存在することが判明し、現在では字名を付して、北側の遺物散布地点を用見崎遺跡、南側の遺物散布地点を用長浜遺跡として遺跡登録している。

用長浜遺跡 その後、長島商事がごしま植物園が用見崎遺跡周辺を笠利分園として開発することになり、これを受けて1994年に笠利町教育委員会が発掘調査をおこなった。

発掘調査では、今回我々が発掘した東側の4グリッドを主に発掘し、兼久式土器・石器・貝製品・自然遺物のほか、住居跡2棟を検出した。出土土器はくびれ平底で葉痕のある兼久式土器である。石器では石皿、貝製品では貝錘・貝輪・貝札・貝匙・貝斧等が出土した。1号住居跡は攪乱を受けており、不明瞭であったが、2号住居跡では方形のプランが確認された。この調査の成果については笠利町教育委員会によってすでに報告されている⁽³⁾。

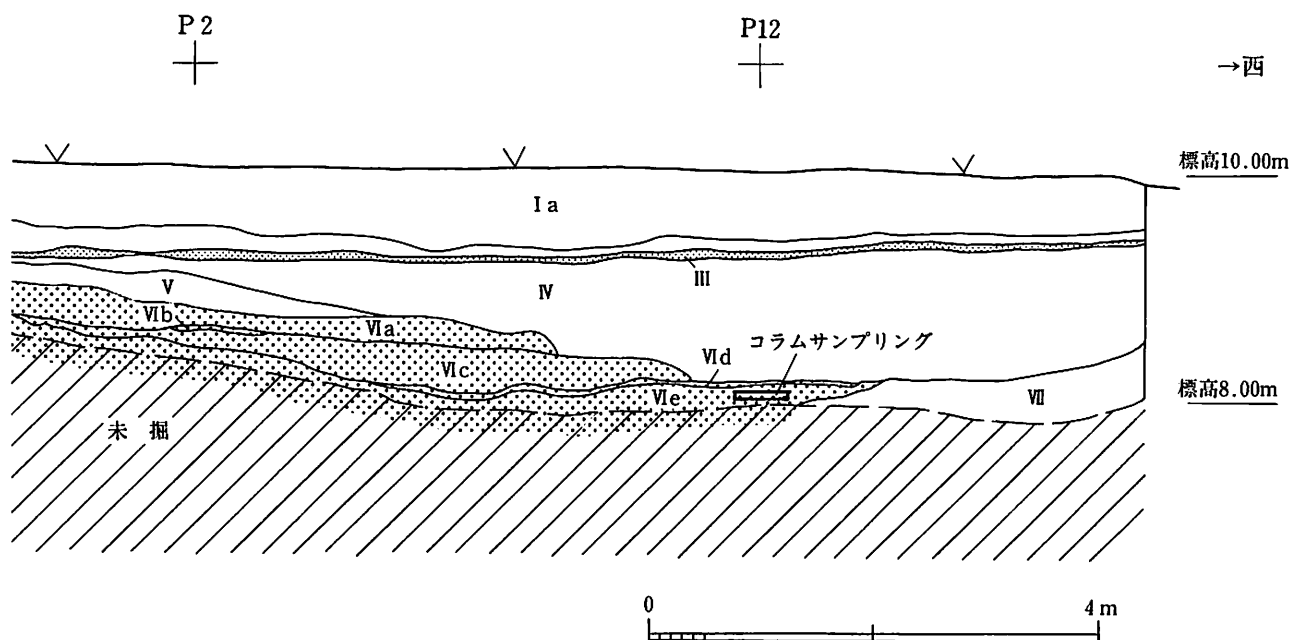
2. 調査の目的と経過

グリッド設定 前回の笠利町教育委員会による調査の結果、本遺跡が兼久式期の良好な単純遺跡であることが判明した。今回、兼久式期の遺跡利用の実態をとらえることを目的として、1995年7月11日から21日まで発掘をおこなった。まず、前調査と同様に調査区全体に5m四方のグリッドを設定し、第3図のように北から南へアルファベットを、東から西へ数字を付した。その後、A-2・3、B-2・3区の4グリッドを発掘したが、表土が後世の盛土で遺物をほとんど含まないことを確認できたため、重機によってB-2区北側のセクションベルトを残して遺物包含層上面まで掘り下げた。さらに、遺物包含層を5cm単位で掘り下げ、A-2区およびB-2区に遺物が多く集中する地点を確認した。また、A-3区とB-3区の遺物包含層を掘り下げたところ、小規模の貝溜りを確認した。出土状況を実測し、遺物の取り上げをおこなった後、A-2・3区、B-2区をさらに掘り下げ、実測と遺物のとりあげをおこなった。B-3区については時間的な制約から掘り下げを断念した。全体を通してA-2区とB-2区において遺物が集中していた。また、層序確認のために、前回笠利町教育委員会が発掘した溝内にトレンチを設定し、第1トレンチと名付けて基盤層まで掘り下げた。その結果、遺物包含層が地表面下約80cmのところまで広がっていることが確認できた。遺跡内にある溝は、前回の調査で兼久式期にすでに存在していた可能性が指摘されていたことから、溝内において溝に直交して第2トレンチを設け、層序の確認を行った。これと並行して、B-2区の北西隅に25cm×25cm



第3図 遺跡周辺地形測量図

の区画を設定し、コラムサンプリングをおこなった。同時に山側への包含層の範囲を確認するため、B-4・5区の南隅に1m×9mの東西方向の第3トレンチを設定し、これを掘り下げ 第3トレンチ



- III層：明黄褐色（10YR6/6）の水田耕作土である。水田内の下部堆積土であり、土質的に III層
はII層と同じだが、マンガンの沈着により、部分的に凝固している。小礫を含む。II
層同様にB－5区西端で消える。
- IV層：にぶい黄褐色土層（10YR4/3）である。東の溝側では安定した床土を形成し、山側 IV層
では水田面造成のため、谷部を埋めて厚く堆積する。山側の厚く堆積する部分には、
粘土塊が混入する。この土層は調査区東側の溝に沿って、南北に畦畔を形造る土であ
り、II・III層の土留めとなる。非常に堅くしまっている。
- V層：褐色（7.5YR4/3）のシルト層である。水田造成時に持ち込まれた整地土層である。 V層
2・3区の境界付近に堆積する。粘性が強く、砂利や貝粉を含む。
- VI層：遺物包含層である。前回報告のIV層に相当する。西に傾斜して堆積し、土質・色調の VI層
違いによって、以下のVI a～VI eの5層に細分することができる。 包含層
- VI a層：褐色（7.5YR4/4）のシルト層である。B－3区からB－4区中央まで広がる。や
や粘性があり、貝粉を多く含む。水田の影響を受け、堅くしまる。
- VI b層：暗褐色（7.5YR3/4）のシルト層である。P－2付近にわずかに堆積する。土質は
VI a層と同じである。炭化物を多く含む。
- VI c層：灰褐色（7.5YR4/2）の砂層である。B－4区に堆積する。わずかに粘土を含む。
貝粉を含む。
- VI d層：黒褐色（7.5YR3/1）のシルト層である。粒度のそろったシルトや砂の層が幾重に
も重なることから、水性堆積層と判断できる。山際の低い地点に薄く堆積する。1 cm
大の炭化物や貝類を含む。
- VI e層：灰褐色（7.5YR5/2）の砂層である。堆積は溝際から山裾まで全面に及び、P－12
の西で収束する。B－4区中央で最も落ち込む。貝粉を多く含む。
- 溝部に堆積するVI層は、わずかな色調の違いにより、VI f・VI g・VI hの3層に細分できる。
3層ともに水田造成以前に、VIII層の落ち込む部分へ西側から流れ込んだ二次堆積土層である。

VI g 層は I b 層の流入時に上面を乱されている。断面から判断すると 3 層ともに白砂の高まった部分で収束すると思われる。

Ⅶ層 Ⅶ層：明褐色（7.5YR5/6）の粘土層である。山からの流入土であり、粘性が強く、小礫を多量に含む。貝類の混入は少ない。

Ⅷ層 Ⅷ層：黄色（2.5YR8/6）の砂層である。遺物を含まない、いわゆる白砂層である。用見崎遺跡における基層の自然堆積層である。

水田 溝際から山裾までを利用した旧水田はⅡ～Ⅴ層からなり、調査区全面に及ぶ。西に傾斜する砂丘をⅣ・Ⅴ層を用いて平坦に整地している。さらにⅣ層によって畦畔が造られ、その内部にⅡ・Ⅲ層が水平に堆積している。確認できた水田面は 1 枚のみであり、Ⅳ層の畦畔内においてプリントものの肥前磁器片が出土したことから、この水田の造成時期は比較的新しいと思われる。また、谷部を埋め立てた造成の跡は、かなり大規模な耕地拡大の計られた時期のあったことを示している。土地の人の話によれば、水田は大正期にはすでに存在していたということであり、水田の造成時期もこれよりあまりさかのぼるものとは考えられない。

溝 旧水田の畦畔が位置的に溝を意識して造られていることから、調査区東端を南北にはしる溝は、水田造成以前にはすでに存在していたことがわかる。さらにⅧ層が溝で落ち込み、Ⅵ層が流入していることから、当遺跡の存続時にすでに現在の溝のような凹地が存在していたことが窺える。これが現在の溝のように南北に続いていたら、当時の砂丘地形はこの凹地によって、東西にゆるやかに分かれていたことになる。Ⅰ a・b・c 層が切られていることや、第 2 トレンチ北壁セクションで確認できたように、畦畔部が断ち切られていること（図版 3 中）などから、水田造成後数度にわたって、溝の改修がおこなわれたことがわかる。

遺物包含層であるⅥ層は P-1 付近を最頂部として西側に緩やかに傾斜し、山際に狭い谷を形成する。東西 4 m にわたって薄く堆積するⅥ d 層が、水の影響を受けているとみられることから、山との間に南北に細長い後背湿地をつくるように砂丘が形成されていたことがわかる。今回の調査でⅥ層の広がる範囲が確認され、詳細な土層観察がおこなえたことより、遺跡存続時から現代に及ぶ、山裾から海に至るまでの土地利用を一貫して窺うことができる。（原田）

4. 遺物出土状況（第 5 図）

Ⅵ層中において土器・石器・貝製品・貝類などが出土した。調査区にみる遺物全体の分布は、北東側に密であり、南東では希薄になる。Ⅵ層は色調の違いによって、Ⅵ a からⅥ e の 5 層に細分することができるが、第 5 図は標高 9.20m 前後において平面的に捉えた遺物出土状況である。調査区東側の約 2/3 がⅥ e 層に含まれ、あとはⅥ a 層に含まれる。以下に各区における出土状況について述べる。

A-2 区 Ⅵ A-2 区では南端において、やや小形の甕の下半部が立位で出土した（第 6 図 15・図版 5 上）。上半部の破片は、下半部出土地点周辺の半径約 50cm 内に散在する。この土器については土坑の検出はないものの、出土状況をみた場合、埋設されていた可能性も否定できない。土器
貝錘 と比較して貝類の出土量が多い。中央部北側においては、ヤコウガイの体層を加工した貝錘が
ホシダカラ 出土し、同地点よりやや南からは、ホシダカラが 5 個まとまって出土した（図版 4 下）。出土
地点に土坑は確認できないが、殻には傷がないことから、貝殻の取得を目的としたのではない

だろうか。同区からはほかにウミギクガイ製貝鍾や、リュウキュウマスオ製貝鍾が出土している。

B-2区では土器が最も多く出土する。北半部に比較的大型の土器片が出土している。器面には顕著な摩滅の痕はなく、同区内においての接合例も数例ある。土器が集中する付近には貝類の分布は疎らである。散在する土器片に混在して、ウミギクガイ製の容器が出土した。またオオベッコウガサ製の貝輪の一部やヤコウガイ製の貝匙も出土している。石器としては、クガニシ形石器や敲石などが出土している。出土した石器や石の中には、火熱を受けたものがあり、炭化物も出土する。当区ではヤコウガイが多く出土している。他区において出土する貝類の種類に大きな違いはないが、ヤコウガイの出土はその大部分がB-2区南西部に限られる。前回の調査でもヤコウガイは列をなして出土したとされており、このような状況から、本遺跡におけるヤコウガイは、他の貝類とはやや異なるあり方を示すといえよう。

A-3区では北西部に土器がやや集中するが、小片が多い。マガキガイやリュウキュウヒバ리가、他区に比べまとまって出土する。貝類の出土量は多いが、土器などの遺物は少ない。当区西側中央部分は遺物の空白地帯となるが、これは遺物の少ないVIa層が残るためである。炭化物の細粒が散在しているが、まとまった焼土は確認できなかった。

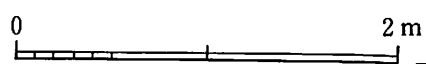
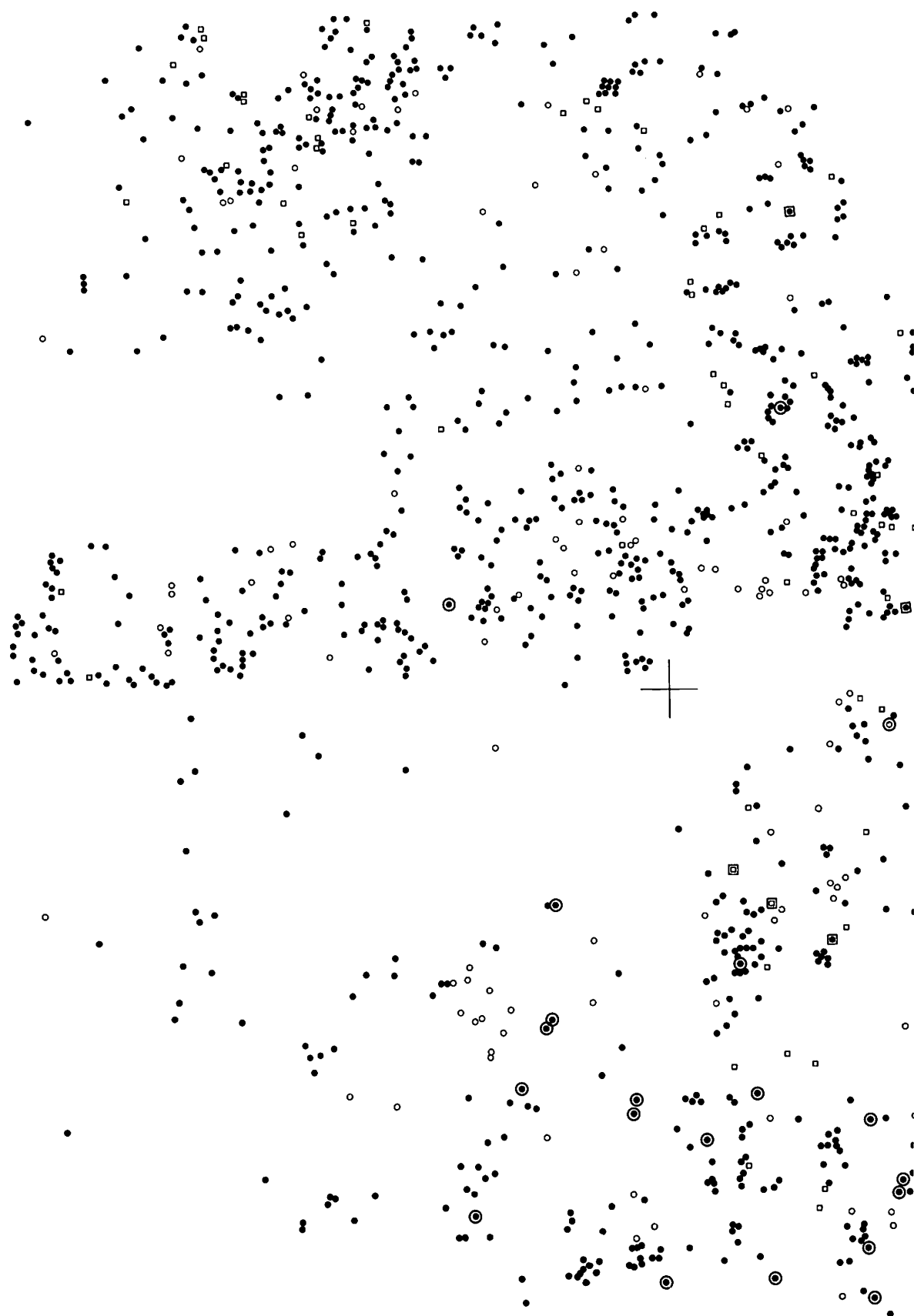
B-3区においては砂層が強く凝固し、貝粉が多く混じる。これもVIa層が多く残る影響である。小型の貝類が散在し、また土器の小片が出土するが、特記すべき遺物は出土していない。B-2区から続いてヤコウガイが出土するものの、今回の調査区中では最も遺物の出土量が少ないグリッドである。

調査区の西側に延長した第3トレンチの山際からは、イノシシの下顎骨・カメの甲羅・多量の魚骨・土器片などが出土した。ここは遺物包含層であるVI層が最も下に落ち込む地点であり、地形や土質からみて後背湿地となっていた可能性が高い場所でもある。A・B-2・3区では獣骨などの動物遺存体の出土はほとんどなく、山際に形成された後背湿地が、獣骨などの食物残滓の廃棄場所として利用されていた可能性が考えられる。

土器は、B-2区北端からA-3区南端を中心に調査区のほぼ全域に分布する。調査区全体を通じ、距離をおいての土器片の接合例がないことや、極端に摩滅した土器片が存在しないことから、VI層は砂層でありながらも比較的安定した層であったと考えられる。

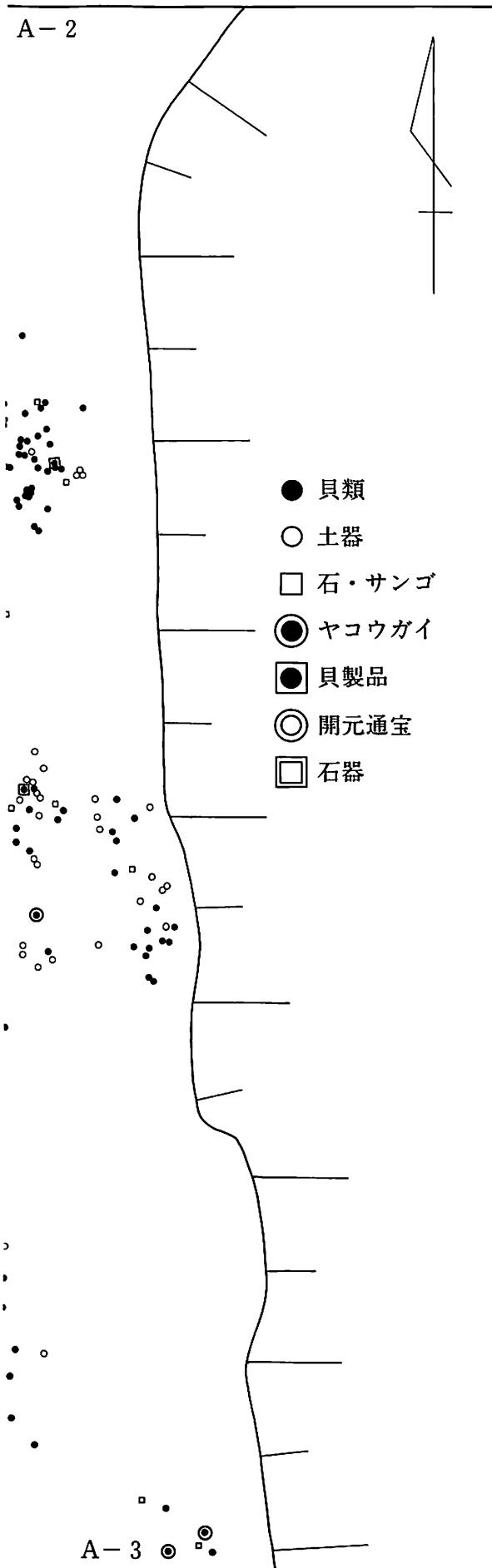
全体の遺物出土状況をみた場合、多くの貝類の分布については各区を通じて差がみられないものの、土器や石器などの人工遺物は、B-2区に集中しているといえる。また、ヤコウガイについても体層が板状に割り取られていることから、二次的に利用されたものと考えことができ、同様に人工遺物として捉えられるが、これもB-2区からB-3区にかけての出土例が多い。明確な炉跡の検出はないが、火熱を受けた土器や石、あるいはススの付着した土器や石が出土したことや、炭化物が多くみられることから、当時の人々が同区内において火を使用し、煮炊きをおこなったことは確実である。B-2区の以上のような状況は、人の生活の痕跡として認定できるものである。したがって、今回図示した面を一時期の生活面として捉えることができるだろう。同区北端部の土器が原位置からほとんど移動していないということを前提とすれば、土器の集中地点に貝類の分布が希薄であるということは、調理もしくは食事の場と貝殻の放棄の場とが分別された状況を示すと考えられる。また、出土したヤコウガイの多くは殻口

B-2



B-3

第 5 図 遺物出土状況



端部が割られているが、これは蓋を外し、身を取り除くための行為によるものだろう。

以上のような出土状況と前回調査の成果を考えると、砂丘の東側から後背湿地のある山際までが、すべて当時の人々の生活の場であったことが窺える。やや砂丘の高まった東側では前回調査で住居跡が検出され、貝類が全面に広がる。山にむかって傾斜する西側では、貝類とともに被熱痕のある遺物が出土し、さらに西側に位置する山裾の低所からは、他の地点にみられない動物遺存体が出土している。したがって当時の人々が地形の変化に対応し、それぞれの地点において異なった土地の活用をおこなっていたということが想定できよう。またこのように人々の生活の場が砂丘の前面から山裾にまで及び、その生活の痕跡を微地形と対応して観察できるということは本遺跡の特徴といえる。

土地の活用

今回、Ⅳ層中より開元通宝が1点出土しているが、Ⅳ層は層中よりプリントものの肥前磁器片が出土したことから、おそらく近代以降の土層だと考えられる。しかし、開元通宝の出土地点はB-2区の北側、Ⅳ層の最下部である。出土地点にⅤ層の堆積はみられず、Ⅳ層は直接Ⅵ層に接する。したがって開元通宝出土位置のⅥ層とのレベル差は数cmしかなく、Ⅳ層が水田造成時に持ち込まれた土であることから、造成に伴う攪乱によって、Ⅵ層上面よりⅣ層下面に開元通宝が混入した可能性は十分に考えられる。またⅣ層中より出土する土器がⅥ層に含まれるものと大差ないことは、水田造成時にⅥ層上面が攪乱されたことを窺わせる。

開元通宝

調査ではピックアップ法で貝類のとりあげをおこなったが、適宜メッシュを用いて、微細な遺物の検出にも努めた。これとあわせて、遺物包含層に含まれる貝類についてさらに詳細に種の同定をおこない、当時の人々の貝の利用状況を把握するために、B-2区の北西隅および第3トレンチ西部でコラムサンプリングを実施した。その結果は本報告特論に記されている通りである。

貝類
ピックアップ法
コラムサンプリング

(山田・原田)

三 出土遺物

1. 土 器

今回の発掘で出土した土器は完全に近い形の1点を除き、小片が多かった。これらの土器を器形の違いによって甕と壺の2種類に分類した。以下、それぞれの器形について詳述する。

甕

甕（第6・7図 以下括弧内は図の土器番号を示す）

口縁部文様を中心に、凸帯及び沈線の有無によって以下のように分類した。

1類：文様が貼り付け凸帯と沈線により構成されているもの。

2類：文様が貼り付け凸帯だけで構成されているもの。

3類：文様が沈線だけで構成されているもの。

4類：無文のもの。

1類 1類土器（1～11） 凸帯は全て刻目を有する。この中には、沈線が凸帯の上下にあるもの（1-a類）、凸帯の上部の口縁部分にあるもの（1-b類）、凸帯が横位のほかに縦位または斜位にめぐるもの（1-c類）がある。凸帯に刻目を施す方法にも違いがあり、竹管状工具やヘラ状工具で押圧したもの、沈線で凸帯を切ったものがある。

1-a類（1・3・6・11） 1は口縁部がやや外反し、口縁部から胴部にかけて直線的な傾きをもつ。凸帯の刻目は沈線により切られている。外器面は全面ナデ調整、内器面には全面にヘラ状工具によるナデ調整を施す。色調は褐灰色を呈する。胎土は細かく緻密であり、わずかに雲母を含む。外器面にはススが付着する。3は口縁部がわずかに外反する。凸帯上に刻目をもち、内器面にも沈線で文様を施す。外器面はナデ調整、内器面は指押さえの後にナデ調整を施す。6は口縁部が直線的に立ち上がる。波状沈線を施し、凸帯上に刻目をもつ。外器面はナデ調整、内器面はハケ調整を施した後にナデ調整を施す。11は今回の発掘で出土した土器の中で最大である。器形は口縁部がやや外反し、胴部は若干膨らみをもつ。凸帯上に刻目をもち、凸帯は途中で途切れる。内外器面はハケ調整を施した後にナデ調整を施す。胎土は砂粒を多く含み、外器面にはススが付着する。

1-b類 1-b類（2・4・8・10） 2は口縁部がやや外反し、凸帯上に竹管状工具による刻目をもち、内外器面ともにナデ調整を施す。4は叉状施文具により平行沈線を施す。凸帯上に竹管状工具による刻目をもつ。10は口縁部が外反せずに立ち上がり、胴部はゆるやかな膨らみをもつ。凸帯上に竹管状工具による刻目をもち、凸帯の上部の沈線は叉状施文具で施す。胎土はキメが細かく、わずかに雲母を含む。器面は黄褐色を呈し、外器面は横方向のハケ調整を施した後にナデ調整を施す。内器面にはハケ調整が顕著にみられ、粘土継ぎ目も認められる。

1-c類 1-c類（5・9） 5は横位と斜位の凸帯をもつ。9は横位・縦位の凸帯がめぐる。器形は口縁部がやや外反して、胴部はゆるやかな膨らみをもつ。器壁が約1cmと他の土器と比べて厚く、補修孔が外側から穿たれる。凸帯上に竹管状工具による刻目をもつ。外器面は横方向のナデ調整を施し、ススが付着する。胎土は他の土器と比べて多くの砂粒を含む。

2類 2類土器（12～18） この中には、凸帯に刻目を施すもの（2-a類）、施さないもの（2-b類）がある。凸帯上の刻目は竹管状工具によるものである。

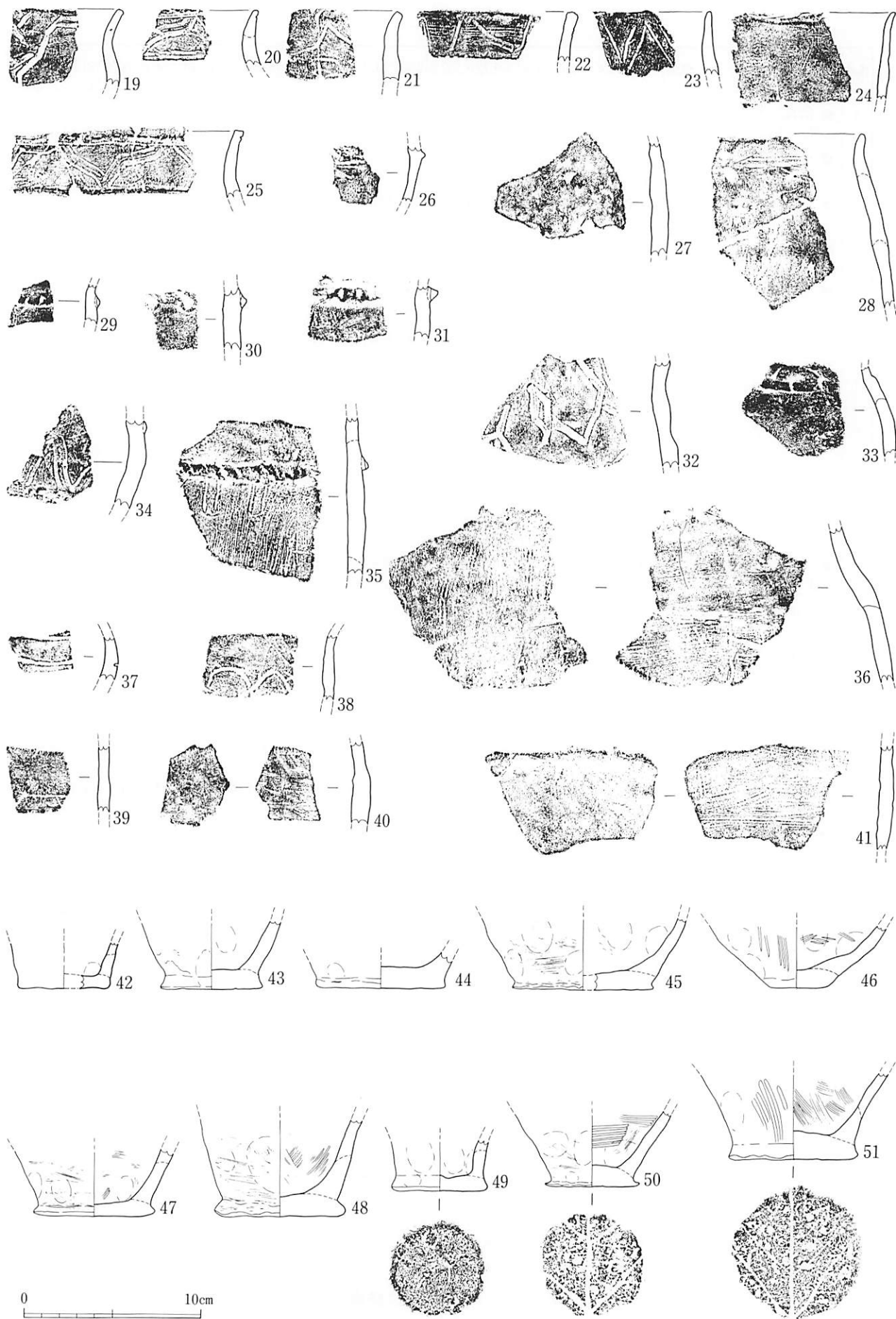


第6图 出土土器实测图(1)

- 2-a類 2-a類 (12・13・14・16・17・18) 12は口縁部が直線的に立ち上がる。外器面は横方向のナデ調整、内器面は指押さえ・ナデ調整を施す。13は口縁部がやや外反し、内外器面ともに横方向のナデ調整を施す。14は口縁部が折り返され、直線的に立ち上がる。外器面は縦方向のハケ調整を施した後に横方向のナデ調整、内器面は指押さえ後ハケ調整を施す。胎土は緻密であり、わずかに雲母を含む。16は口縁部が外反し、外器面は横方向のナデ調整、内器面は横方向のハケ調整を施す。胎土は緻密であり、わずかに小雲母片を含む。18は口縁部がやや外反し、胎土は緻密であり、雲母を含む。焼成はあまり良くない。器面は黄褐色を呈し、外器面には黒斑がある。
- 2-b類 2-b類 (15) 全体を復元できた唯一の例である。器高約21cm、口径約14.5cm。最大径が凸帯の直下にあり、口縁部に向けてわずかに内向し、口縁部が真つすぐに立ち上がる。底部はくびれ平底であり、葉痕を有する。凸帯は全周せず、途中で途切れる。横位の凸帯を貼り付けた後に縦位の凸帯を貼り付けている。外器面はナデ調整、内器面はハケ調整・ナデ調整を施す。内外器面ともに粘土継ぎ目の痕を残す。
- 3類 3類土器 (19) 口縁部はやや外反し、幅の広い施文具により沈線を施す。内外器面とも横方向のナデ調整を施す。胎土は緻密であり、わずかに雲母を含む。
- 4類 4類土器 (24) 口縁部が外反せずに真つすぐ立ち上がり、内外器面ともに横方向のナデ調整を施す。
- その他 その他1～4類土器に分類できなかったものに20～23・25がある。また、胴部片には26・29～31・34・35・37～41がある。胴部の調整には指押さえの痕を顕著に残すもの、ハケ調整の痕を顕著に残すもの、丁寧にナデ調整を施して指押さえやハケ調整の痕を消すものがある。
- 壺 壺 (第7図27・28・32・33・36)
- 壺の胎土は緻密であり、わずかに小雲母片を含む。それに対し、甕の胎土は砂粒を含んでいる。壺の色調は黄褐色を呈しており、胎土や色調により甕と区別できる。28は口縁部であり、短頸壺と思われ、指押さえの痕が顕著であり、内外器面ともにナデ調整を施す。27は補修孔が穿たれており、内外器面ともにナデ調整を施す。32は内外器面ともに指押さえの痕が顕著であり、幅の広い施文具により沈線を施す。33は胎土は緻密であるが脆い。36は外器面に縦方向のハケ調整を施し、内器面に横方向のハケ調整を施す。
- 底部片 底部片 (42～51) 底部片はくびれ平底で葉痕を有するもの、くびれ平底で葉痕を有しないもの、底部付近がくびれをもたない平底のもの、丸底に近い平底のものがあるが、くびれ部の厚さも薄いものから厚いものまであり不均一である。
- 形態的特徴 今回出土した土器はその形態的特徴からすべて兼久式土器と判断される。口縁部片26個では甕が25点、壺が1点と、甕の割合が高い。甕の類別は1類11点、2類7点、3類1点、4類1点、その他5点であり、文様を刻目凸帯と沈線とで構成するタイプが多かった。2-b類については約10km南の長浜金久遺跡で同じタイプが出土しており、兼久式土器の中では新しいタイプと考えられる⁽¹⁾。
- (美浦)

註

(1) 弥栄久志編『長浜金久遺跡』鹿児島県教育委員会、1985年。

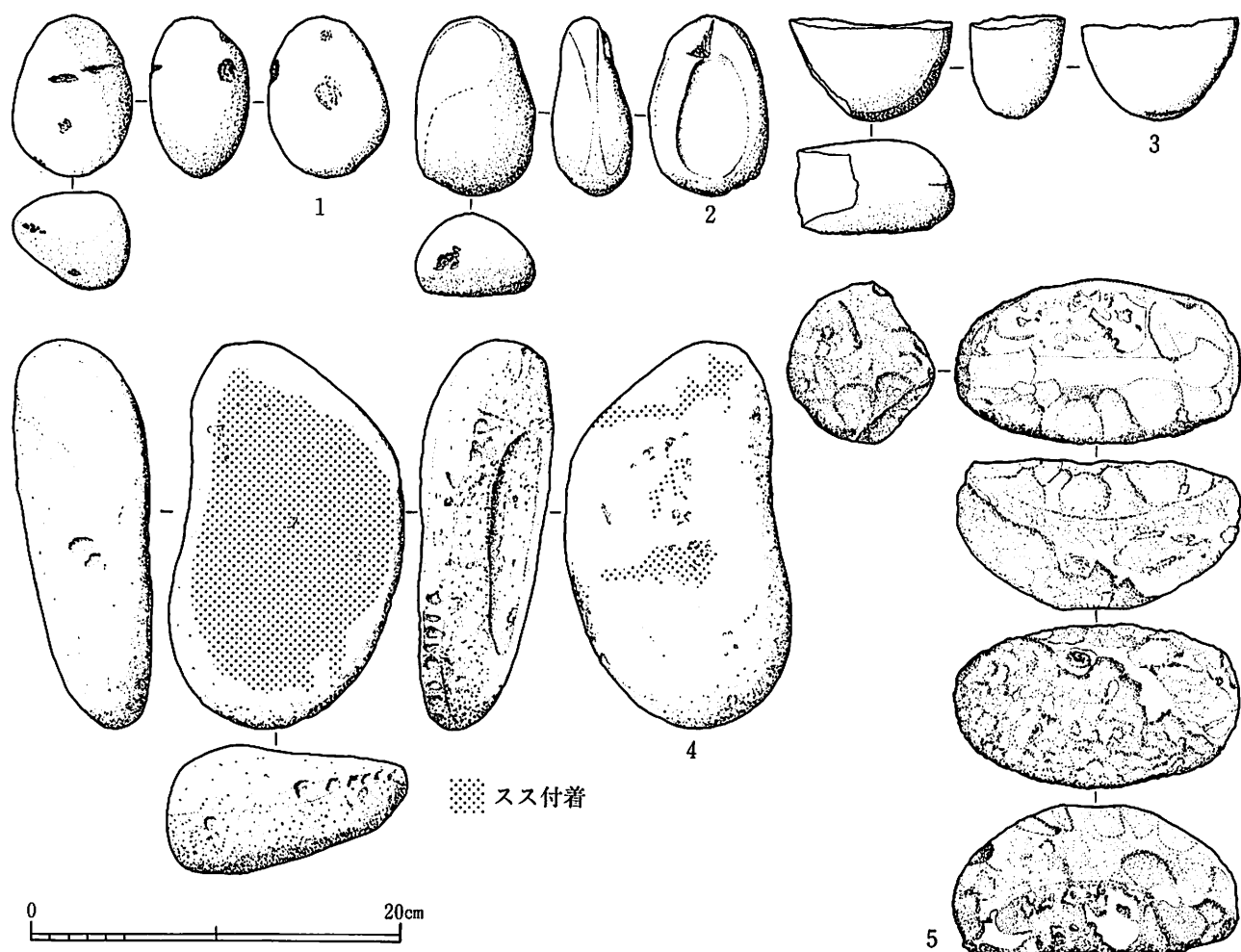


第7図 出土土器実測図(2)

番号	器種	部位	胎 土	焼成	色調	調整：外器面/内器面	出土地点	番号	器種	部位	胎 土	焼成	色調	調整：外器面/内器面	出土地点
1	甕	口縁	小雲母を含む	良好	灰褐色	C/A C	A-2区	27	壺	胴部	小雲母を含む	良好	橙 色	C/A C	B-2区
2	甕	口縁	砂粒を含む	良好	茶褐色	C/A C	B-2区	28	壺	口縁	小雲母を含む	良好	黄褐色	A C/A C	第3トレ
3	甕	口縁	砂粒を含む	良好	褐 色	C/A C	A-2区	29	甕	胴部	小雲母を含む	良好	明褐色	C/D	A-2区
4	甕	口縁	砂粒を含む	良好	鈍橙色	C/A C	第3トレ	30	甕	胴部	砂粒を含む	良好	明褐色	C/C	B-2区
5	甕	口縁	砂粒を含む	良好	黒褐色	C/C	A-2区	31	甕	胴部	砂粒を含む	良好	赤褐色	C/D	A-2区
6	甕	口縁	砂粒を含む	良好	暗褐色	C/B C	A-2区	32	壺	胴部	小雲母を含む	良好	橙 色	A C/A C	B-2区
7	甕	口縁	砂粒を含む	良好	暗褐色	C/C	A-2区	33	壺	胴部	小雲母を含む	良好	黄橙色	D/D	B-2区
8	甕	口縁	砂粒を含む	良好	黒褐色	C/C	第3トレ	34	甕	胴部	砂粒を含む	良好	暗褐色	C/C	B-3区
9	甕	口縁	砂粒を含む	良好	黒褐色	C/A B	A-3区	35	甕	胴部	砂粒を含む	良好	赤褐色	B C/C	B-3区
10	甕	口縁	小雲母を含む	良好	橙 色	B/B	B-2区	36	壺	胴部	砂粒を含む	良好	黄褐色	B/B C	B-2区
11	甕	口縁	砂粒を含む	良好	赤褐色	B C/A B C	B-2区	37	甕	胴部	砂粒を含む	良好	褐 色	C/C	第3トレ
12	甕	口縁	砂粒を含む	不良	橙 色	C/A C	第3トレ	38	甕	胴部	小雲母を含む	良好	褐 色	C/B C	A-2区
13	甕	口縁	砂粒を含む	良好	暗褐色	C/C	B-2区	39	甕	胴部	小雲母を含む	良好	橙 色	C/B	攪乱層
14	甕	口縁	小雲母を含む	良好	赤褐色	B C/D	B-3区	40	甕	胴部	小雲母を含む	良好	明褐色	C/D	第3トレ
15	甕	口縁	砂粒を含む	良好	暗褐色	A B C/A B C	A-B-2区	41	甕	胴部	小雲母を含む	良好	黄褐色	C/C	B-3区
16	甕	口縁	小雲母を含む	良好	黒褐色	C/B C	A-2区	42	甕	底部	砂粒を含む	良好	赤褐色	C/A B C	第3トレ
17	甕	口縁	砂粒を含む	良好	暗褐色	C/C	第3トレ	43	甕	底部	砂粒を含む	良好	赤褐色	A C/C	A-2区
18	甕	口縁	小雲母を含む	良好	橙 色	C/D	B-2区	44	甕	底部	砂粒を含む	良好	橙 色	A C/B	第3トレ
19	甕	口縁	砂粒を含む	良好	暗褐色	C/B C	攪乱層	45	甕	底部	小雲母を含む	良好	明褐色	C/A C	第3トレ
20	甕	口縁	砂粒を含む	良好	暗褐色	C/C	A-2区	46	壺	底部	小雲母を含む	良好	橙 色	A B/A B C	B-3区
21	甕	口縁	小雲母を含む	良好	橙 色	D/D	B-3区	47	甕	底部	砂粒を含む	良好	明褐色	A/C	B-2区
22	甕	口縁	砂粒を含む	良好	赤褐色	C/B C	A-2区	48	不明	底部	砂粒を含む	良好	明褐色	A C/A B C	B-2区
23	甕	口縁	砂粒を含む	良好	暗褐色	C/C	第3トレ	49	不明	底部	砂粒を含む	良好	赤褐色	A C/A B C	第3トレ
24	甕	口縁	砂粒を含む	良好	褐 色	C/C	第3トレ	50	甕	底部	小雲母を含む	良好	赤褐色	A C/B C	B-3区
25	甕	口縁	砂粒を含む	良好	暗褐色	C/C	B-3区	51	甕	底部	小雲母を含む	良好	明褐色	A C/D	B-2区
26	甕	口縁	砂粒を含む	良好	茶褐色	C/C	攪乱層								

第1表 出土土器観察表

(調整：A=指押さえ B=ハケ調整 C=ナデ調整 D=不明瞭)



第 8 図 出土石器実測図

2. 石 器 (第 8 図)

今回の調査で合計 6 点の敲石・磨石・クガニイシ形石器が出土した。

敲石 (1・2・4) 1 は平面形・断面形ともに楕円形を呈する。浅い敲打痕が表裏の中央部分に集中し、側縁部にも認められる。チャートの自然円礫を使用し、長さ 8.8cm・幅 6.5cm・厚さ 5.4cm・重さ 360g である。第 2 トレンチ VI 層出土。2 は平面形・断面形ともに楕円形に近い。下端部には敲打痕が認められ、裏面には縦方向に擦痕が認められる。チャートの自然円礫を使用し、長さ 9.8cm・幅 8.5cm・厚さ 4.5cm・重さ 369g である。B-2 区 VI 層出土。4 は表面と裏面の一部が赤く変色してススが付着し、側面には敲打による凹凸が残る。サンゴ製で、長さ 21.1cm・幅 12.2cm・厚さ 7.0cm・重さ 1200g である。第 2 トレンチ VI 層出土。

磨石 (3) 全体の約半分を欠損している。表裏面ともに使用による磨滅が認められ、とくに表面は非常に滑らかで光沢がある。また、側縁部も使用によりやや平坦になっている。チャートの自然円礫を使用し、重さ 337g である。第 2 トレンチ攪乱層出土。

クガニイシ形石器 (5) 平面形は楕円形で、断面形は扇形を呈す。全体的に風化が進んでいるが、敲打により整形されており、幅約 1cm の帯状平坦面が上部に認められる。上半部が研磨され、側縁部と下部が使用により磨滅し、下部には凹みが一ヶ所認められる。花崗岩製で、長さ 15.7cm・幅 9.5cm・厚さ 8.1cm・重さ 1600g である。B-2 区 VI 層出土。(川野)

3. 貝製品

貝製品は24点出土した。そのうち装飾品と考えられるものが6点、生活用具と考えられるものが18点である。

貝製玉 (第9図1・2・4) 1・2はともに小形イモガイの殻頂部を利用している。1は上面に研磨による平坦面を作り、一部に斜めの研磨面がみられる。2は表面が摩耗しており、研磨痕は不明瞭である。浜に打ち上げられた貝を用いている可能性がある。4はマガキガイの殻頂部を利用しており、上面は研磨によりやや平坦になっている。

用途不明貝製品 (3) 全面摩耗により光沢をもつ。研磨痕は不明瞭で上面のくり込みは孔の可能性がある。ウミギクガイ科の打ち上げ貝を利用したものか。

貝輪 (5・6) 5は貝の表面に粗く研磨した痕があり、内縁端部は摩耗し滑らかになっている。オオツタノハ製である。6は研磨痕は不明瞭だが、内縁端部の割れ口が摩耗しやや滑らかになっている点から貝輪であると思われる。オオベッコウガサ製である。

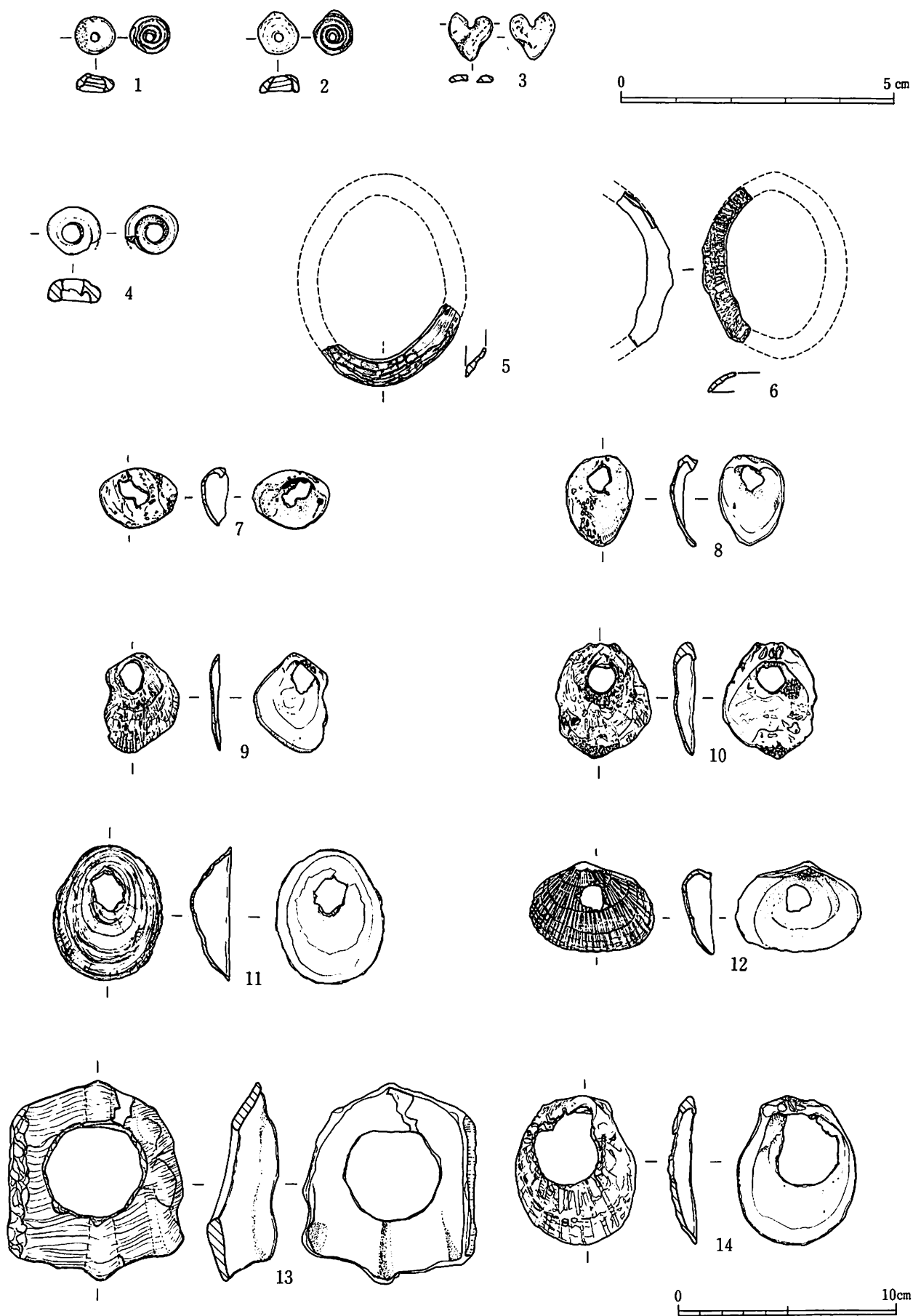
貝錘 (7~14) 7は表面が磨滅し光沢をもつ。主歯や腹縁部は摩耗し、丸みを帯びている。ウミギクガイ科の打ち上げ貝か。8の表面は一部磨滅し、腹縁部は摩耗により丸みを帯びている。主歯は摩耗して光沢をもち、内側から穿孔されている。ウミギクガイ科製である。9は表面が磨滅し、周縁は摩耗により丸みを帯びる。内側から穿孔され、主歯は摩耗して滑らかになっている。ウミギクガイ科製である。10は全面摩耗している。穿孔は内側からおこなわれている。ウミギクガイ科製である。11は腹縁部がやや摩耗し、穿孔が内側からおこなわれている他は、使用痕らしきものは認められない。オオベッコウガサ製である。12は主歯と腹縁部が摩耗しやや丸みを帯びる。内側から穿孔されている。リュウキュウマスオ製である。13はヤコウガイ殻口付近の体層を利用したものである。周縁や孔の内縁は摩耗し丸みを帯びる。左端の螺肋や孔の内縁端部に細かい整形痕が認められ、全面やや擦れている。14は全面が摩耗し丸みを帯びる。主歯や孔の主歯側は摩耗が激しく、光沢をもつ。内側から穿孔している。ウミギクガイ科製である。

ヤコウガイ蓋製利器 (第10図15~18) 15は周縁全体に打ち欠き痕がある。下縁部から左側縁部にかけて刃部先端が摩耗している。16も両側縁に打ち欠きによる剥離が認められる。17は下縁部に刃部が認められ、細かい整形の痕がみられる。18は下縁部に刃部が確認でき、刃部先端は摩耗している。

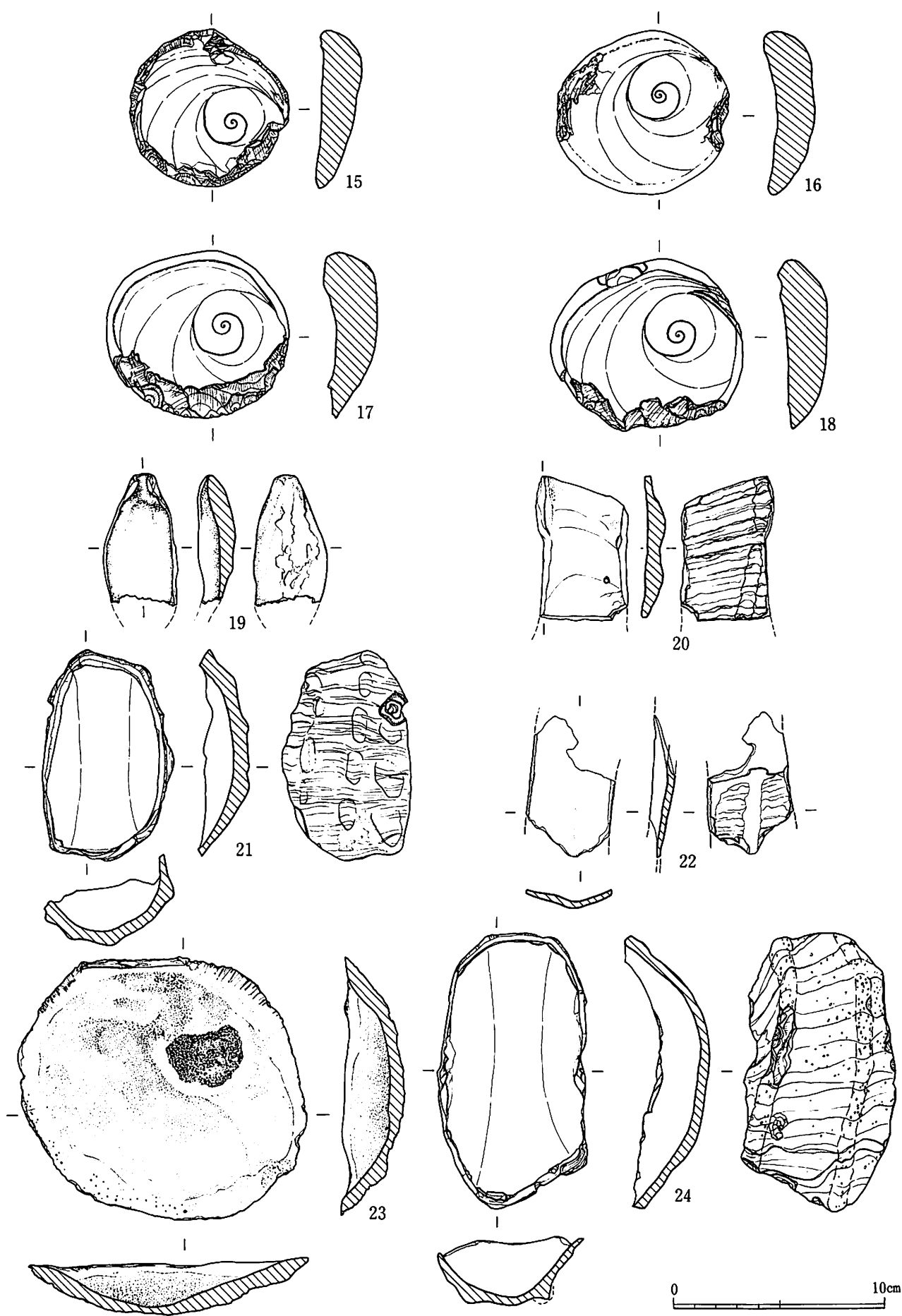
匙状貝製品 (19~22・24) 19は大形巻貝の体層を利用している。両縁部は摩耗し滑らかになっている。加工痕は不明瞭だが他に類例の多いことから容器として使用した可能性が高い。20はヤコウガイの体層を用いたものである。両側縁が擦れていることから、貝匙の柄の部分と思われる。21はヤコウガイの体層を割り取ったものである。左側縁の一部に整形痕がある他は加工痕がない。22もヤコウガイの体層を割り取ったもので、螺肋は研磨され、全面が擦れている。24はヤコウガイの体層を利用しており、周縁を細かく整形している。螺肋は一部を除いて研磨され、一部に打ち欠き痕が認められる。

皿状貝製品 (23) ウミギクガイの主歯を除去し、円形にしている。明瞭な加工痕は認めがたいが、全体的にやや擦れた痕を残す。

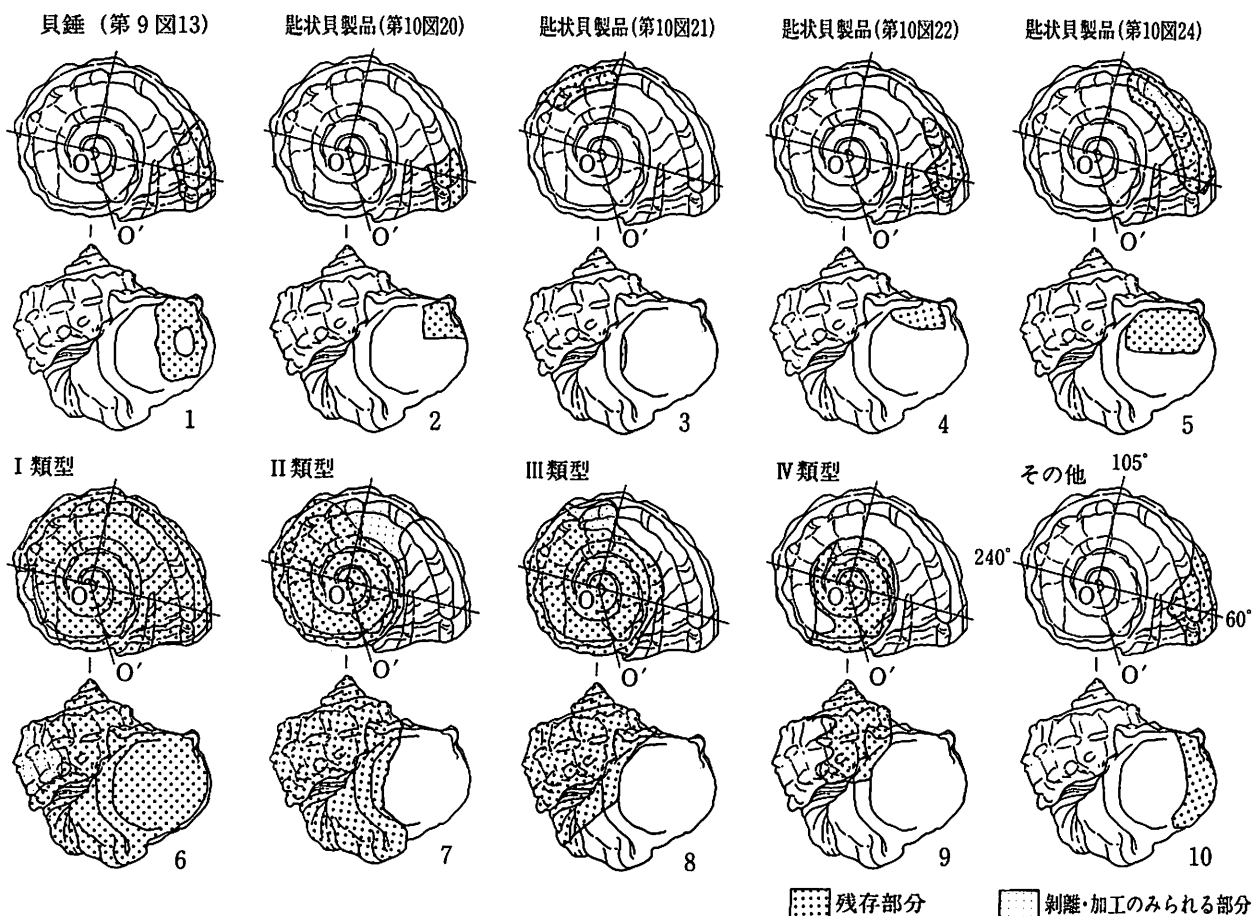
ヤコウガイ 第一次調査では多数のヤコウガイがまとまって出土している。今回の調査ではそのような出



第9図 出土貝製品実測図(1)



第10図 出土貝製品実測図(2)



第11図 ヤコウガイ製品使用部位と破損類型（1～5ヤコウガイ使用部位 6～10破損類型）

土状況は確認されなかったが、自然遺物に占める同種の割合は小さくなく、また貝殻を利用した製品も数点出土した。出土したヤコウガイの貝殻を観察した結果、貝殻の割れ方にいくつかのパターンが認められた。これらの貝殻の破損はヤコウガイの身を取り出すためだけのものとは考え難く、製品の加工方法と何らかの関係を示すのではないかと予想される。

ここでは出土したヤコウガイの貝殻54個を破損の程度によって5パターンに分類し、これと製品との関係を検討することにした。殻頂と体層の縫合先端とを結んで基線（O・O'）とし、基線から60°・150°・240°の角度を設定した（第11図10参照）。貝殻の欠損が上記0～60°に及ぶものをI類型、0～150°に及ぶものをII類型、0～240°に及ぶものをIII類型、III以上の範囲に及ぶものをIV類型、殻頂が欠損するものをその他とした（以下類型省略）。

上記に従って分類した結果、Iは33%、II、IIIは各々5%、IVは9%、その他は49%であった。I～IVとその他は殻頂の有無によって互に対応すると考えると、破損の割合は基本的にI～IVの数値に示されているとみることができる。Iは殻口がわずかに欠けている他は加工痕が認められず、食用のためだけのものと考えられる。II～IVは体層を大きく割り取っており、何らかの製品製作のために割り取ったものと考えられる。第11図に示した製品（未製品を含む）は、1はII、2はII、3はIV、4はII、5はIIIに対応し、この想定に矛盾しない。

上記より、ヤコウガイは5割弱が食用のみに使用され、他の5割の貝殻が製品の材料として転用された可能性が高いといえる。製品との対応をみるとIIが最も多い。しかしIVはII・IIIより全体に占める割合が高いにもかかわらず対応する製品の出土数が少なく、この点については疑問が残る。

（高崎）

4. 開元通宝

B-2区北側から開元通宝が1点出土した。出土層位は旧水田の畦を形成するⅣ層の最下部である。

出土層位

この地点にⅤ層は認められず、Ⅵ層上に直接Ⅳ層が堆積している。よって開元通宝出土レベルは、包含層であるⅥ層とはわずか数cmを隔てるばかりのところである。このⅣ層は、水田面造成にあたって山土を客土として移入し、Ⅵ層上部を攪乱しながら水平にならず際に浮いた土を盛り上げて形成された層と

解釈でき、また、同層から出土した土器の多くはⅥ層のものと同一である。このような土層の上下関係を考えると、Ⅳ層最下部に位置していた開元通宝が本来Ⅵ層に含まれていた可能性は高いといえる。

官鑄銭

今回出土した開元通宝の残存状況は良好である。この開元通宝は背面無文で書体は隸書、「開」は「開」となり、「元」は第2画の向かって左端が跳ね上がっている。また、背面側の鑄型が若干ずれている。縁部は縦の外径が24.10mm・内径が20.65mm、横の外径が24.20mm・内径が20.15mm、方孔は縦6.00mm・横6.15mm、厚さは1.65mm、重量は3.35gである。非常に良質の、初唐の特徴を備えた官鑄銭とされる⁽¹⁾。

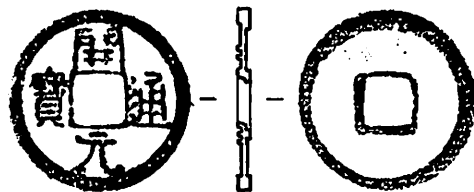
通用年代

開元通宝は武徳4(621)年に初鑄され、以降唐代を通して通用された。会昌8(846)年からの開元通宝には背面に鑄造地が記されている。唐滅亡後も五代期には南唐などで鑄造され、北宋期にも篆書の開元通宝が作られたりしたが、唐代ほど広く、永く通用することはなかった。さらに唐代を通じて良銭からビタ銭までさまざまの私鑄銭の開元通宝も民間で通用していた。また唐代における開元通宝は国際通貨としては機能せず、あくまで内部貨幣に過ぎなかったという指摘がある⁽²⁾。

私鑄銭

最近高宮廣衛氏によって南島における開元通宝が貨幣として用いられていたのではないかという興味深い論が提示されている⁽³⁾。その流入過程についても諸説あるが、奄美諸島においてはまだ二例目にすぎないので、今後の資料の増加を待つことにしたい。しかし高宮氏の指摘のように開元通宝の存在が南島考古学に大きな問題を投げかけていることには違いなく、さらに第13図・第2表に示すように現在国内出土の開元通宝のほとんどが南島に集中しており、この現象をどう解釈するかは、古代史にとっても大きな課題であると考えられる。(山下)

課題



第12図 開元通宝拓影図 (S=1/1)

註

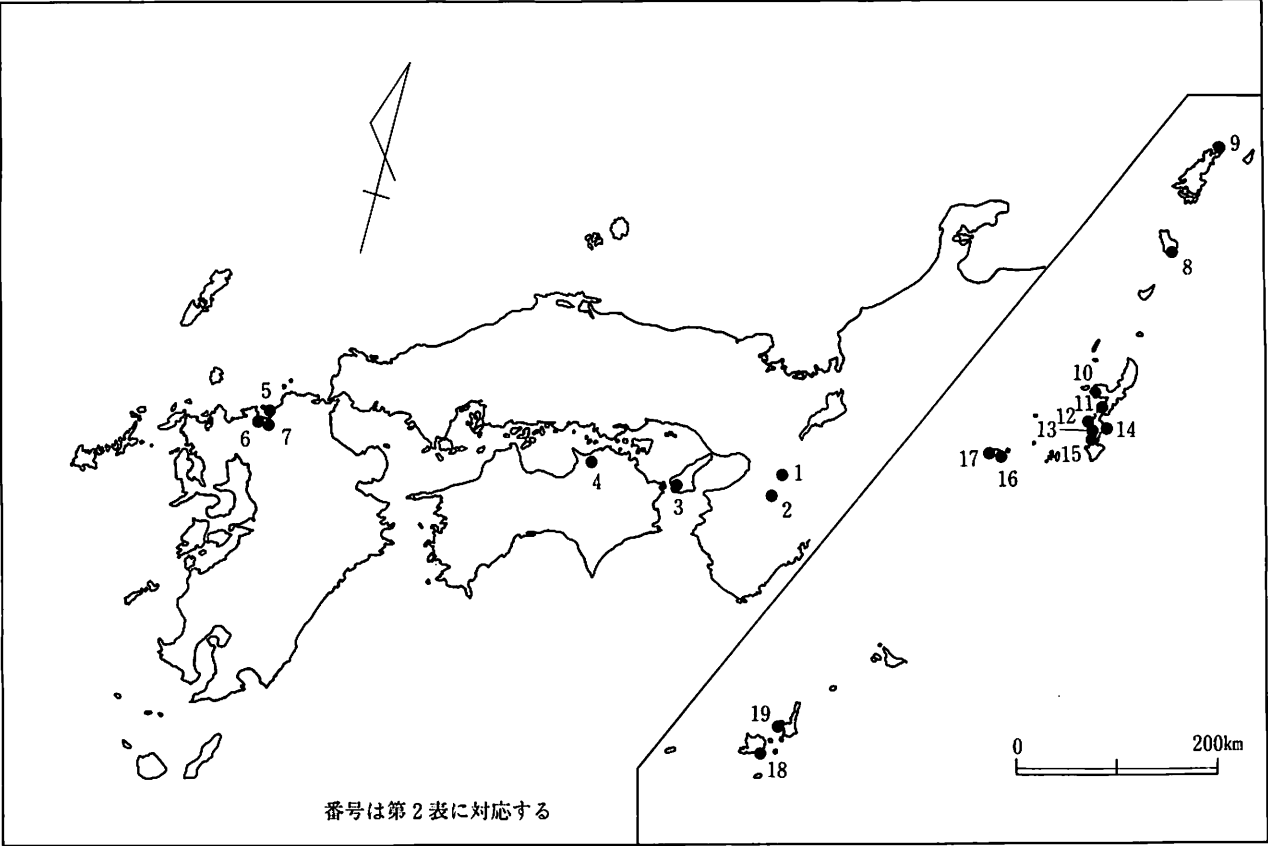
(1) 中国山東省の銭貨研究者である朱活氏の御教示による。

(2) 開元通宝に関する記述は以下の文献による。

足立啓二「東アジアにおける銭貨の流通」『アジアの中の日本史Ⅲ海上の道』東京大学出版会、1992年。

宮澤知之「唐より明に至る貨幣経済の展開」『東アジア専制国家と社会・経済』青木書店、1993年。

(3) 高宮廣衛「開元通宝から見た先史終末期の沖縄」『王朝の考古学大川清博士古稀記念論文集』雄山閣、1995年。



第13図 開元通宝出土遺跡（西日本・古代）

No.	遺 跡 名	数	県名市町村区名	備 考	文献
1	平城京跡	1	奈良県奈良市	平安時代初期の溝から出土。	①
2	坂田寺跡	1	奈良県高市郡明日香村	鎮壇具を埋納した土坑より出土。796年を溯らない。	②
3	平松遺跡	1	兵庫県三原郡南淡町	包含層(古代)より出土。	③
4	金蔵寺下所遺跡	1	香川県善通寺市金蔵寺町	包含層(古代)より出土。	④
5	海の中道遺跡	1	福岡県福岡市東区	包含層(古代)より出土。	⑤
6	下山門遺跡	1	福岡県福岡市西区	包含層(平安末～鎌倉初期以前)より出土。	⑥
7	柏原古墳群G-1号墳	2	福岡県福岡市南区	羨道の土器の下、敷石間の朱混じりの粘土中より権と共に出土。	⑦
8	面縄第一貝塚	4	鹿児島県大島郡伊仙町	貝層下部より出土。貝層は兼久式土器を包含する。	⑧
9	用見崎遺跡	1	鹿児島県大島郡笠利町	1995年調査(本報告)。	
10	兼久原貝塚	1	沖縄県国頭郡本部町	包含層出土であるが攪乱を受けている。	⑨
11	熱田貝塚	2	沖縄県国頭郡恩納村	貝塚時代後期系の土器が供伴している。	⑩
12	連道原貝塚	8	沖縄県中頭郡読谷村	貝塚時代後期遺跡における採集。	⑪ ⑫
13	野国貝塚	6	沖縄県中頭郡嘉手納町	包含層より鉄塊・貝塚時代後期系の土器と共に出土。	⑫ ⑬
14	平敷屋トゥバル遺跡	3	沖縄県中頭郡勝連町	貝塚時代後期層の下層からくびれ平底土器と供伴。	⑫
15	真志喜大川原第一遺跡	1	沖縄県宜野湾市	くびれ平底土器を有する包含層より出土。	⑫ ⑭
16	謝名堂遺跡	1	沖縄県島尻郡仲里村	貝塚時代後期遺跡における表面採集。	⑫
17	北原貝塚	13	沖縄県島尻郡具志川村	五銖銭・青銅器片・くびれ平底土器・貝符などと共に出土。	⑮
18	仲間第一貝塚	1	沖縄県八重山郡竹富町	裏面に「福」の字がある。無土器文化のものである。	⑯
19	崎枝赤崎貝塚	33	沖縄県石垣市	27枚は包含層出土、6枚は表面採集による。無土器文化のもの。	⑫

第2表 開元通宝出土地名表(1995年12月作成) (文献は30ページに記載する)

5. 自然遺物

コラムサン
プリング

今回の発掘において、出土した自然遺物は全て記録しとりあげること努めた。また自然遺物集中箇所を選んで、小面積を限り、包含層を土ごと採取するコラムサンプリングをおこなった。後者の分析結果については別項に報告があるので、ここでは前者によって得られた知見を記したい。

小グループ

自然遺物は発掘区全般に分布している（第14図）。これらを発掘時の判断に基づいて任意の小グループに分けてとりあげ、その内容を第3表に示した。なおA-2・3区では貝の集中が上下に重なって認められたので、表ではこれらを分けて示し、前者を①、後者を②としている。

出土した獣骨・魚骨等にはリュウキュウイノシシの下顎骨・ブダイの咽頭骨・ウニの棘などがあるが、ほかは小さな骨片が多い。

ピックアッ
プ法

出土した貝殻はピックアップ法では26科70種に及び、その多くはサンゴ礁内の礫底、砂泥底や岩場に生息するものである。以下、発掘区ごとに出土傾向を述べよう。

ヤドカリ

A-2区①ではマガキガイが24個あり、多くはNo.1・7に集中し、打ち割られたアマオブネが3個認められた。A-3区①ではアマオブネが91個、マガキガイが58個あり、多くはNo.12・19・22に集中し、区全般に破損した貝が分布する。B-2区ではリュウキュウヒバリの完形貝・破片がNo.24に集中する。B-3区では完形貝が46個ある。No.31に貝殻が集中する。B-2・3区ではヤコウガイが16個ある。A-2区②ではハナマルユキダカラ17個、リュウキュウヒバリ14個があり、多くはNo.37に集中し、No.35にホシダカラ3個がまとまって出土した。A-3区②ではマガキガイ、コウダカカラマツ、ツノレイシが多く出土した。A-2区②・A-3区②のアマオブネ330個のうち、ヤドカリの入った跡が認められるのは14個、体層破損は33個である。

分析

今回、昨年の発掘調査で多かったとされる⁽¹⁾マガキガイ・アマオブネ・リュウキュウヒバリ・コウダカカラマツ・ハナマルユキダカラに加えて、ツノレイシ・シラクモガイなどのアッキガイ科の貝が認められた。リュウキュウヒバリ、ハナマルユキダカラは破片がほとんどであり、コウダカカラマツはすべて完形貝である。このほかヤコウガイはすべて殻口部が欠損していた。同貝の蓋が12個出土しているのほとんどが貝を生きたまま遺跡に持ち込んでいると思われる。殻口部は蓋を取り外すときに欠損したと思われる。ホシダカラは完形貝と背面の破損しているものがある。アマオブネにはヤドカリの入ったものや破損しているのがみられる。アッキガイ科の貝の70%は螺塔や体層を破損し、殻口部を欠損している。マガキガイの48%は殻口部を欠損し、螺塔や体層を破損しているものをあわせると67%に及ぶ。すでに指摘のあるように⁽²⁾マガキガイは調理（焼く、茹でる等）しても蓋が殻口から取り出せるところにあり、軟体を取り出すのに殻をあえて割る必要はない。貝殻に多く認められる破損や欠損の意味について、今後は民俗例にみる調理法ともあわせて具体的に検討する必要があるだろう。（益永）

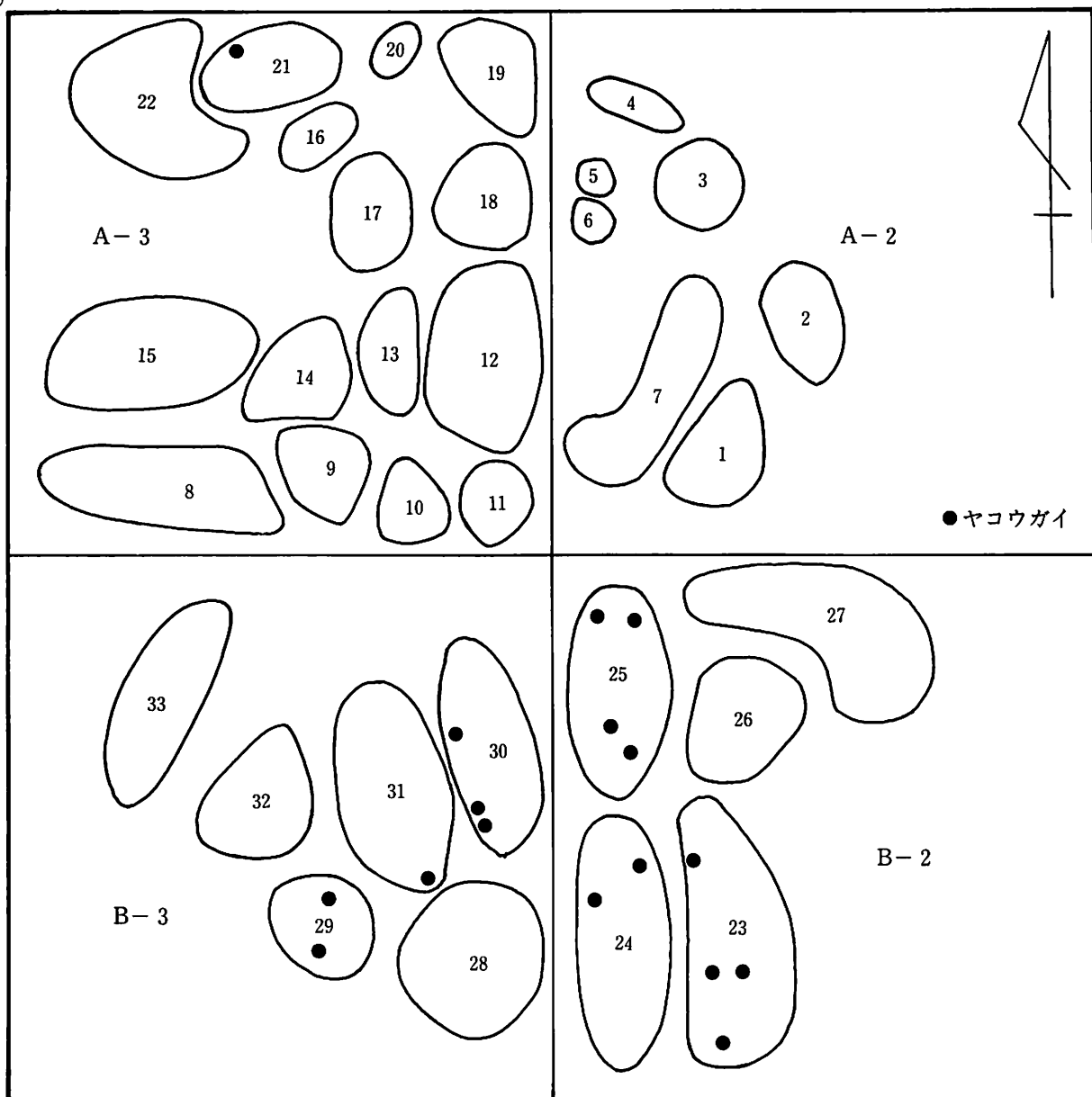
課題

註

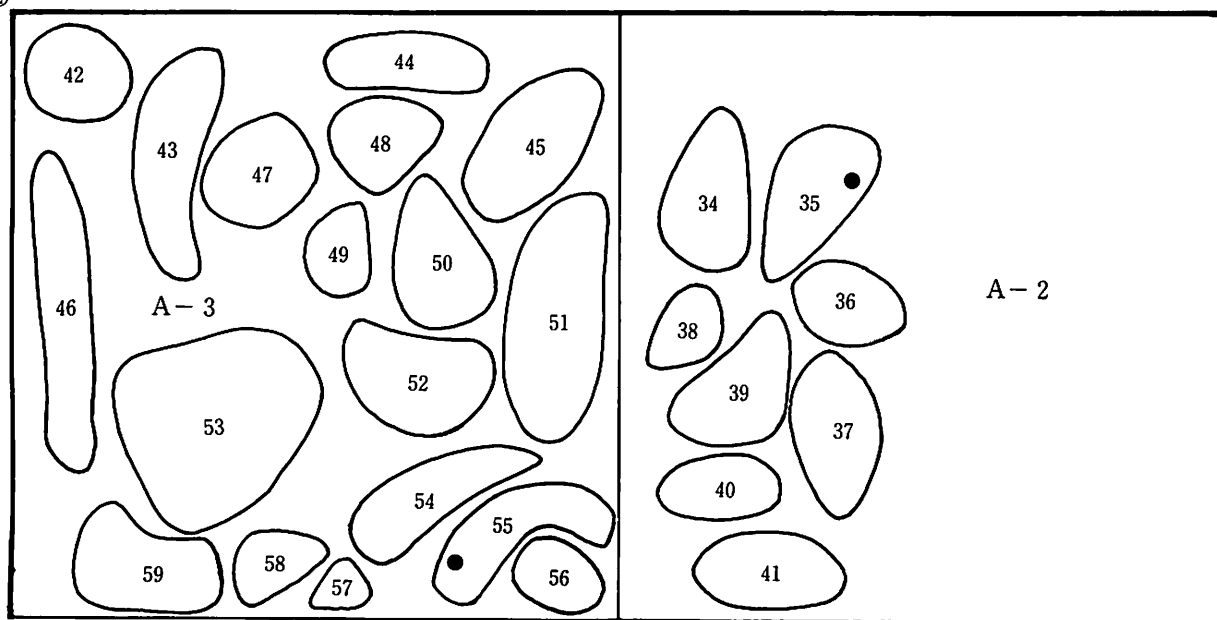
(1) 黒住耐二「貝類遺存体」「用見崎遺跡」鹿児島県笠利町教育委員会、1995年。

(2) 黒住耐二「軟体動物遺存体」「知場塚原」沖縄県本部町教育委員会、1988年。

①



②



第14図 貝類とりあげ番号対応図 (①上面②下面 No.は第3・4表に対応)

区	No	備 考
A-2 ①	1	アマオブネ15、マガキガイ7、ツノレイシ5、ホシダカラ・シラクモガイ各3、リュウキュウヒバリ・リュウキュウマスオ各2、レイシガイ類・チョウセンサザエ・イトマキボラ・シラナミ・オニノツノガイ各1。マガキガイ・シラクモガイやツノレイシなどは殻口部の欠損や体層の破損がある。体層の穿孔されたアマオブネが2。巻貝にヤドカリの入った跡は認められなかった。小さな破片も多く出土している。
	2	アマオブネ4、リュウキュウマスオ3、リュウキュウヒバリ・シラナミ・ホシダカラ・ツノレイシ・コウダカカラマツ各1。体層の打ち割られたオニノツノガイあり。シラナミ・リュウキュウヒバリ・リュウキュウマスオなどの二枚貝の破片が多い。
	3	マガキガイ2、レイシガイ類4、オオベッコウガサ・シラナミ・オキニシ・チョウセンサザエの蓋各1。マガキガイは殻口部が、レイシガイ類は殻口部と殻頂に欠損や穿孔がある。
	4	殻口部欠損や殻口部欠損と穿孔のあるマガキガイ2、体層の破損したレイシガイ類・シラクモガイが各1。
	5	ヤコウガイの破片、マガキガイやタカラガイ類各1、リュウキュウヒバリ2。
	6	ヤコウガイの破片多数、殻口部および殻頂部欠損のベニシリダカ1、アミノメダカラ・コマドボラ各1。
	7	マガキガイ12、コウダカカラマツ5、アマオブネ4、イトマキボラ2、リュウキュウマスオ・シロイガレイシ・オオベッコウガサ各1。殻口部欠損、打ち割られたものが11、体層や殻頂部の破損するものや破片がある。
A-3 ①	8	マガキガイ7、ハナマルユキダカラ5、ハナヒラダカラ、シロイガレイシ・スイショウガイ類各1。外部欠損のマガキガイ3。体層・次体層の破損したものや小片がほとんどである。その中に体層を破損するシラクモガイで火を受けたもの1。他に火を受けたものはなく、また炭化物も認められない。
	9	チョウセンサザエの蓋とアマオブネ以外は破片である。それらはシラナミ腹縁部2、タカラガイ類口唇部3、マガキガイ・レイシガイ類の殻頂部・体層の一部が4である。
	10	シラクモガイ・コウダカカラマツ・アマオブネ・イガイ科各1。これらは破損のない完形である。
	11	リュウキュウマスオ・シラクモガイ各1。完形のシラクモガイ・ツノテツレイシが火を受けている。
	12	マガキガイ・タカラガイ類・コウダカカラマツ各3、リュウキュウマスオ・ウズラガイ・オキニシ各2、マダライモ・アンボンクロザメ・シラナミ各1、不明1。アマオブネ28のうち、10にヤドカリの入った跡が認められ、破損しているものが8。体層・次体層・殻頂部の欠損したものが14ある。
	13	アマオブネ10、ハナマルユキダカラ3、リュウキュウマスオ・シロイガレイシ・コウダカカラマツ各2、ハナヒラダカラ・リュウキュウナミノコ各1。ほとんどは部分的に欠損したものや小片である。
	14	マガキガイ4、コウダカカラマツ・ハナヒラダカラ・シラナミ・リュウキュウマスオ各1。殻口部を欠損する以外は完形のヤコウガイ1。
	15	殻口部欠損、体層に穿孔されたマガキガイ7。チョウセンサザエの蓋・コウダカカラマツ・シラナミ・ハナヒラダカラの完形が各1、マガキガイ・ハナマルユキダカラ・オキニシの破片あり。
	16	マガキガイ・ムラサキイガレイシ各2、サラサバテイ・ハナヒラダカラ・オオベッコガサ・リュウキュウマスオ各1。ヤコウガイの肋と内唇部の破片あり。そのほかヤコウガイ・チョウセンサザエの蓋があるが人為の痕跡は認められない。
	17	殻口部および螺塔の欠損したツノレイシ1、殻口部欠損のマガキガイが2。口唇部を残して背面の破損したハナヒラダカラ4、ほかのグループでも類似した破損のタカラガイがみられる。
	18	マガキガイ5、チョウセンサザエ・ヤコウガイの蓋各1。
	19	殻頂部欠損のイトマキボラ・殻口部および螺塔の欠損のツノレイシ各1。殻口部欠損のマガキガイ7、シラクモガイ2、ヤコウガイの蓋・コウダカカラマツ・チョウセンサザエ・レイシガイ類各1。アマオブネ10のうち5が破損している。
	20	螺塔から体層にかけて欠損しているマガキガイ1。シロイガレイシ・タカラガイ類・ウズラガイ・リュウキュウヒバリ各1。
	21	螺塔・殻口部欠損のシラクモガイ1、殻頂が欠損し体層が50%以上残存したヤコウガイ1。マガキガイは殻口部欠損したもの2、体層に穿孔されたもの1。チョウセンサザエ・マガキガイの螺塔・体層の破片が9、アマオブネ9、ヌノメガイ1。
	22	アマオブネ18のうちヤドカリの入った跡が認められるもの5、破損しているものが6。リュウキュウマスオ・リュウキュウヒバリ・ヌノメガイなどの二枚貝は腹縁部・殻頂の欠損したものが12。出土したマガキガイ13のうち10が殻口部・体層下部・殻頂部欠損しており、破片が5。殻口部欠損または螺塔の破損したオニノツノガイ・ツノレイシ・レイシガイ類・ミツカドボラが15。ホシダカラとハナマルユキダカラは口唇部の片方が残存しているものや、背面が破損しているもの14。完形のもの28、主なものはアマオブネ12、チョウセンサザエ・ヤコウガイの蓋各2、コウダカカラマツ5、マガキガイ3、ベッコウガサ・ハナヒラダカラ各2である。
B-2	23	ヤコウガイが集中しており、体層に穿孔されたもの2、体層が50%以上残存したもの2。レイシ・オニノツノガイ・チョウセンサザエは殻口部欠損や穿孔されたもの5。スイジガイは背面が破損している。
	24	体層または螺塔に穿孔のあるオキニシ・レイシガイ類各1、ヤコウガイ2。背面の破損したクモガイ・殻口部欠損のシラクモガイや縁に人為の痕跡のあるヤコウガイの蓋がある。約1.5cmの動物骨片1。
	25	火を受けたとおもわれるヤコウガイ・マガキガイ各1。殻口部欠損・穿孔のあるもの11、螺塔・外唇部の破片が14。ヤドカリの入った跡の認められるアマオブネ5。
	26	殻口部欠損や穿孔のあるオニノツノガイ3、レイシガイ類1、螺塔・口唇部の破片8。
	27	殻口部欠損のマガキガイに横方向に研磨痕らしき傷が数本認められる。2cm大のかけらの炭化物やウニの棘が出土している。火を受けたサンゴ1。

第3表 出土貝類観察表(1)

区	№	備 考
B-3	28	殻口部が欠損したサラサバテイ・オニノツノガイや穿孔されたイトマキボラ各1。
	29	腹面の穿孔されたクモガイ1。ヤコウガイは殻口部が欠損したもの1、内唇部と体層の一部が残存したもの2。ヤコウガイの蓋・サラサバテイ各1。
	30	殻口部欠損する以外は完形のヤコウガイ2、そのうちの1つには次体層に剝離された部分がある。また次体層が残存しているもの1、リュウキュウヒバリ4。
	31	完形23、各数はシラクモガイ2、オキニシ3、シラナミ・レイシ各4、リュウキュウヒバリ6となっている。殻口部欠損や穿孔されたマガキガイ・ニシキウズ・ウズラガイ・サラサバテイ・クモガイ・ヤコウガイが11に及び、炭化物とウニの棘がいっしょに出土している。
	32	殻口部欠損のマガキガイ2、背面の破損したタカラガイ類1、殻頂の欠損しているシラナミ1。シラクモガイ・レイシガイ類・オキニシの完形各1。
	33	殻頂欠損および穿孔されたチョウセンサザエ1、殻口部欠損のマガキガイ2。表面に径3cmのくぼみのあるサンゴ1。レイシガイ類4、イトマキボラ・コウダカカラマツ各2。
A-2 ②	34	マガキガイは殻口部欠損が1、殻口部・螺塔の欠損したもの1。後者は火を受けている。口唇部が欠損したオニノツノガイ1、口唇部から体層が破損しているレイシガイ類1。
	35	ホシダカラは完形3・背面の破損したもの1。体層の穿孔されたオキニシ1、ヤコウガイの殻頂1、レイシガイ類・ハナヒラダカラ・アンボンクロザメの螺塔および口唇部6。
	36	完形25、殻頂や体層の破片15。なかでもリュウキュウヒバリ腹縁部・殻頂の破片が9。口唇部の片方残存したタカラガイ類4、背面の破損したホシダカラ1。螺塔・殻口部の欠損したマガキガイ1、シラクモガイの完形3、そのうち火を受けたと認められるもの1。
	37	殻頂部が摩滅したコウダカカラマツ2。アマオブネ28のうちヤドカリの入った跡が認められるもの1、破損するもの6。タカラガイ類は口唇部の片方残存したもの20で83%を占めている。背面の打ち割られたホシダカラ1。螺塔または体層の破損したツノレイシ9、中に入った砂に炭化物が混じっているが殻自体は火を受けていないサツマボラガイ1。リュウキュウヒバリは完形16・破片25。ハナマルユキダカラは破損するもの25・破片23。
	38	殻口部の欠損したオキニシ3、マガキガイ5。完形のマガキガイ3。
	39	殻口部欠損のシラクモガイ・マガキガイ・サラサバテイ・オニノツノガイが総数7、なかには殻口部以外に殻頂・螺塔の破損するもの2。螺塔穿孔のオキニシ3。完形のマガキガイで火を受けた跡が認められるもの1。人為の痕跡が2ヶ所にみられる径10cm弱のヤコウガイの蓋1、螺塔から体層にかけて破損したもの18、アマオブネ33のうち破損しているもの5。陸産貝3。
	40	口唇部から体層に破損のあるものが11、タカラガイ類・レイシガイ類の口唇部の破片6。
	41	背面の穿孔されたホシダカラ1、口唇部の一部残存したハナヒラダカラ2。マガキガイ・オニノツノガイ・サラサバテイは殻口部欠損したもの各1。リュウキュウヒバリ・コウダカカラマツ各5。
	42	螺塔の摩滅したマガキガイ1、背面の破損したタカラガイ類2。螺塔の欠損したオキニシ・ツノレイシ各1、シラナミ・リュウキュウヒバリの殻頂各2、口唇部・螺塔の破片10。
	43	コウダカカラマツ4。螺塔または体層の破損したもの10、軸が残存したもの2。
A-3 ②	44	殻口部欠損のマガキガイ1。クモガイ・レイシガイ類の殻口部各2。サンゴ4。
	45	サンゴ5、ツノレイシ・コウダカカラマツ各1。殻口部欠損のマガキガイ1。
	46	マガキガイは殻口部欠損5、体層破損3。ハナマルユキダカラ・ハナヒラダカラの口唇部や背面の破片5、体層破損8。クモガイ・チョウセンサザエの螺塔破片。アマオブネはヤドカリの入った跡はなく破損しているもの4。
	47	破損・欠損のない完形の貝はアマオブネ3、破損したアマオブネ4。殻口部欠損のマガキガイ2、リュウキュウマスオ・ヌノメガイの腹縁部・殻頂部の破片4、アンボンクロザメ・ツノレイシの螺塔が4。
	48	殻口部欠損のクロザメモドキ1、螺塔・体層または口唇部の破損したもの9、それらの破片5。
	49	殻口部欠損と殻頂・螺塔の破損したシラクモガイ1、マガキガイ3。口唇部の片方残存したタカラガイ類2。ムラサキイガイレイシ・サラサバテイ・アンボンクロザメ各1。
	50	ハナヒラダカラガイ・ハナマルユキダカラの口唇部が片方残存したもの7、そのなかの1つに火を受けたものがある。殻口部欠損のレイシガイ類1、マガキガイ・チョウセンサザエの体層の破片9。
	51	マガキガイ・コウダカカラマツ・ヒメジャコ2。完形17、破損したタカラガイ類1。
	52	殻口部欠損および螺塔の破損したマガキガイ2、シロイガイレイシ1、ツノレイシ1。タカラガイ類・イモガイ類・リュウキュウヒバリの破片あり。完形のコウダカカラマツ5。
	53	ヤコウガイの破片3、マガキガイは完形3、殻口部の欠損したもの7、体層の破片3。
	54	殻口部欠損のマガキガイ5。マガキガイ・オキニシの螺塔・口唇部の破片10。
	55	殻口部欠損および螺塔・体層の破損したヤコウガイ・レイシガイ類・シオボラ・ニシキウズ・サラサバテイ・オニノツノガイ各1、ツノレイシ5、マガキガイ9。完形はマガキガイ10、コウダカカラマツ4、イボアナゴ1。螺塔口唇部の破片22。アマオブネ31、ヤドカリの入った跡は認められず、破損しているもの5。
	56	シラクモガイ螺塔片5、オキニシ・マガキガイ体層片5、ハナヒラダカラ口唇部3。殻口部欠損と体層の破損しているマガキガイ4。
	57	背面の破損したホシダカラ3、殻口部欠損のオキニシ2、マガキガイ1、レイシガイ類1。
	58	サラサバテイの殻底1、螺塔の欠損したチョウセンサザエ2、殻口部欠損のマガキガイ3、イトマキボラ1。タカラガイ類は口唇部の片方残存したもの2。
	59	螺塔・体層の破損しているもの9。殻口部欠損のツノレイシ2、タカラガイ類口唇部3。3cmくらいのヘビガイ破片2。コウダカカラマツ・マガキガイ各2、シラナミ・リュウキュウマスオ各1。

第4表 出土貝類観察表(2)

四 ま と め

新砂丘 用見崎遺跡は、海岸と高崎山の間約100mをつなぐ狭小な砂丘上に立地する兼久式期の単純遺跡である。長浜兼久遺跡などにみられるように、兼久式期の遺跡が営まれる新砂丘は、山との間に旧砂丘を挟み海寄りに位置する⁽¹⁾。したがって、通常兼久式期の遺跡の背後には縄文後期相当期までの砂丘が位置するのが一般的であり、用見崎遺跡のように背後に山が迫る立地状況は、他の遺跡と比較して特徴的である。

遺物集中状況 今回110m²の範囲を発掘調査し、調査区全面において土器や貝類などを検出した。とくにB-2区では大形の土器片やヤコウガイなどがまとまって出土し、その中にはススの付着した土器や小礫が含まれる。前回の調査では住居跡が2軒検出されており、その周囲より今回の調査と同様に大量の貝類や土器片が出土したことや、前回の調査で出土した土器と今回出土した土器にあまり時間差があるとは想定できないことを考慮すると、B-2区における遺物の集中状況は、前回の調査区から連続した同一時期の生活跡として認定できるものである。遺跡付近では、谷あいには数箇所の水源が確認されており、山裾に形成される後背湿地も含め、生活条件のよい砂丘上を選定していることが理解される。当時の人々は調査区東側に当たる砂丘の前面に住居を構え、その背後において屋外炉を用いて煮炊きをおこなっていたと考えられる。また、山側に延長した第3トレンチ内において、包含層が山際で最も落ち込む地点より、イノシシの下顎骨・カメの甲羅・魚骨などが出土したことから、後背湿地を廃棄場所として利用した可能性が指摘でき、この砂丘上が兼久式期の人々によって地点別に使い分けられ、機能的に活用されていた状況が想定される。

兼久式土器 遺物包含層より出土した土器は兼久式土器のみである。現在、奄美大島では41遺跡において兼久式土器が出土している（第1図）。他の遺跡における兼久式土器と遺物の共伴関係をみると、面縄第1貝塚では兼久式土器に開元通宝の伴うことが確認され⁽²⁾、あやまる第2貝塚では兼久式土器が成川式土器と共伴し、兼久式土器の時期的な帰属が古墳時代以降にまで及ぶことが明らかにされている⁽³⁾。泉川遺跡においては、土師器・須恵器との共伴関係が得られている⁽⁴⁾。しかし、層位的に前後関係を確認できる遺跡が希少であることなどから、兼久式土器の帰属時期は、現状では弥生時代後期から平安時代という幅をもって捉えられており、明確な編年的位置は確定されていない。この点に関して、中山清美氏は兼久式土器の分類を行い、兼久式として一括される土器に、多くのタイプがあることを指摘し⁽⁵⁾、マツノト遺跡や用見崎遺跡出土の新資料によって編年の手懸かりを得たとしている⁽⁶⁾。

貝符 今回出土した土器について、本報告では文様を中心に四つに分類したが、そのうちの1・2類土器が、全体の72%を占めるという結果を得た。1・2類土器は前回報告の土器と同様の特徴をもち、時期的にも近似すると考えられる。前回報告において中山氏は、出土土器の特徴からこれらを「兼久式土器の古いタイプ」とみなし、「マツノト遺跡の下層とほぼ同一時期と思われる」（13ページ）とした⁽⁷⁾。実年代については、広田上層タイプの貝札の共伴と、¹⁴C年代（AD150年前後）を根拠に、前者との関係を重視して「4世紀前後」あるいは幅をもたせて「3世紀後半から5世紀」としている。この場合、鍵は貝札の年代比定である。一方高梨修

氏はマツノト遺跡などの資料を用い、移入資料の有無と文様構成によって兼久式土器を A・B・C の 3 群に分類し、編年をおこなっている⁽⁶⁾。高梨氏は A 群を開元通宝との関係で 5～7 世紀に、B 群を 7～9 世紀、C 群を 9 世紀以降ではないかと推定した。本遺跡の土器は A 群の特徴を示し、氏の編年案によると 5～7 世紀に対応することになる。ただし高梨氏自身も危惧しているように、マツノト遺跡における実年代比定はかなり困難な要素をもつため、今後も慎重な検討作業が必要である。今回出土した土器は兼久式の古い方に位置づけられるが、その実年代については、結論を出すには至らなかった。今回出土の開元通宝は、本来包含層に含まれていたと解釈できるものの、その鍵となり得ないことが非常に惜しまれる。今後の調査に期待せざるを得ない。

マツノト遺跡

実年代

前回・今回の調査を通じて、多量のヤコウガイがある程度地点的にまとまって出土している。ヤコウガイは食用とするほか、蓋は利器として、また体層は容器として利用される。前報告では、大量のヤコウガイの出土にもかかわらず、ヤコウガイ製の製品が一点も出土していないことから、当遺跡がヤコウガイ製品の製作跡であったことが指摘されている。これを受けて本報告では、貝殻の利用部位とその製品との関係を明らかにするため、貝殻の破損状況についての観察をおこなった。その結果、従来知られる貝匙などの貝製品制作に伴う破損部とは異なる部位が割り撮られたヤコウガイが、全体の約 40% を占めることが判明した。製品製作以外の利用方法があったことを暗示させるが、この意味については、今後引き続き検討していく必要がある。

ヤコウガイ

破損状況

用見崎遺跡からはヤコウガイ・チョウセンサザエ・マガキガイなど、多くの貝類が出土しているが、その大部分は潮間帯中・下部に生息する食用可能な貝である。また、貝錘が出土したことや多量の魚骨やカメの甲羅が出土したことから、遺跡の東側に広がる海岸が、食料確保の場となっていたことが窺える。さらに第 3 トレンチ内におけるイノシシの下顎骨の出土はある程度狩猟もおこなっていたことを予測させ、磨石類や石皿の出土はシイなどの堅果類やイモ類の利用を物語り、当時の人々の生業形態が貝類の採集や漁撈のみに偏ったものではなかったことを示している。

生業形態

また、今回の調査では B-2 区Ⅳ層内より開元通宝が 1 枚出土した。銭貨の出土は、銭貨を媒体とした流通経済を予測させるが、奄美諸島における出土例は本例も含めて 2 例が知られるにすぎず、資料の増加が待たれる。

開元通宝

今回の調査によって、用見崎遺跡の人々が砂丘上の微地形や水源などの諸々の生活条件を熟慮した上で生活の場を選定し、また地形にあわせて機能的に土地の活用をおこない、山海に依存した生活を営んでいたことが明らかとなった。小規模な実習発掘ではあったが、当初の目的である兼久式期の遺跡利用の実態の把握はある程度達成できたと考えている。(山田・原田)

調査成果

註

- (1) 弥栄久志編『長浜兼久遺跡』鹿児島県教育委員会、1985年。
- (2) 牛ノ浜修他編『面縄第 1・第 2 貝塚』鹿児島県大島郡伊仙町教育委員会、1983年。
- (3) 池畑耕一他編『あやまる第 2 貝塚』鹿児島県大島郡笠利町教育委員会、1984年。
- (4) 立神次郎『泉川遺跡』鹿児島県教育委員会、1986年。
- (5) 中山清美『兼久式土器 II』『南島考古』第 9 号 沖縄考古学会、1984年。
- (6) 中山清美『奄美における貝符と兼久式土器』『奄美学術調査記念論文集』鹿児島短期大

学付属南日本文化研究所、1992年。

(7) 中山清美編『用見崎遺跡』鹿児島県大島郡笠利町教育委員会、1995年。

(8) 高梨修「マツノト遺跡出土の土器と編年」1995年『シンポジウムよみがえる古代の奄美』の発表資料による。

第2表開元通宝出土地名表参考文献 (23ページ)

- ①鈴木嘉吉編『平城京発掘調査報告書Ⅵ』奈良国立文化財研究所、1975年。
- ②奈良国立文化財研究所編『飛鳥・藤原京発掘調査概報 16』奈良国立文化財研究所、1986年。
- ③阿部嗣治編『平松遺跡』南淡町教育委員会・淡神文化財協会、1995年。
- ④(財)香川県埋蔵文化財調査センター編『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第十冊』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団、1994年。
- ⑤山崎純男編『海の中道遺跡』福岡市教育委員会、1982年。
- ⑥山崎純男他編『下山門遺跡』福岡市教育委員会、1973年。
- ⑦山崎純男編『柏原遺跡群Ⅱ』福岡市教育委員会、1986年。
- ⑧牛ノ浜修・堂込秀人編『面縄第一・第二貝塚』伊仙町教育委員会、1983年。
- ⑨岸本義彦編『兼久原貝塚発掘調査報告書』本部町教育委員会、1977年。
- ⑩金武正紀編『恩納村熱田貝塚発掘調査ニュース』沖縄県教育委員会、1973年。
- ⑪仲宗根求「砂丘は語る」『資料館だより』第27号 読谷村歴史民俗資料館、1993年。
- ⑫高宮廣衛「開元通宝から見た先史終末期の沖縄」『王朝の考古学 大川清博士古希記念論文集』雄山閣、1995年。
- ⑬金関丈夫「琉球野国貝塚発見の開元通宝について」『九州考古学』第9号 九州考古学会、1960年。
- ⑭呉屋義勝「真志喜大川原第一遺跡」『土に埋もれた宜野湾』宜野湾市教育委員会、1989年。
- ⑮知念 勇「先史時代」『久米島具志川村史』具志川村、1976年。
- ⑯金武正紀「仲間第一貝塚出土の開元通宝について」『南島考古だより』第13号、1974年。

用見崎遺跡のコラムサンプルから得られた貝類遺存体（予報）

千葉県立中央博物館 黒 住 耐 二

用見崎（ようみさき）遺跡は、奄美大島笠利町にある古墳時代から古代併行期の兼久式土器の時代の遺跡で、サンゴ礁の砂丘上に立地する。この遺跡の1993年の発掘調査で得られた貝類遺存体の結果はすでに報告されている⁽¹⁾。今回は、本遺跡の2カ所のコラムサンプルから抽出された貝類遺存体について述べる。コラムサンプリングは遺跡の微小な遺物を系統的に得る方法であり⁽²⁾、この方法によって南島の遺跡から自然遺物が抽出された例なく、その有効性についても述べたい。報告に先立ち、サンプルの採集と検討の機会を与えて戴いた熊本大学の甲元眞之・木下尚子の両先生および考古学研究室の皆様にご礼申し上げます。

B-2区 No.1 コラムは、25cm×25cmの面積で上部から5cmずつに区切り、無遺物の白砂層までの7単位サンプルからなっていた。このコラムの包含層は、いわゆる砂丘砂であった。B-4区 No.2 コラムは、10cm×50cmの面積で、No.1と同様に5cmずつ区切った5単位サンプルであった。包含層には礫と粘土が多かった。両コラムともVI層から得られた。各サンプルは4mm・2mm・1mmのメッシュで振るい、フルイ上の残滓中から遺物を抽出した。ただし、No.1の3から7の単位サンプルは乾燥した状態で振るい、他のものは水中で振るった。水中で振るった場合、陸産貝類など浮く固体があり、これらは一括してフロートと記した。

今回確認された貝類遺存体の確認部位ごとの組成を第5～10表に示した。部位ごとの組成を示したので、前回報告された破損率をこの表から見積もることができる。詳細な解析は別の機会におこない、今回は結果の概略を述べる。食料残滓貝類の全体的な組成は、前回報告されたリュウキュウヒバリやアマオブネ類が優先するという傾向と同様であった。しかし両コラム間で、No.1ではリュウキュウヒバリが著しく多く、No.2ではアマオブネ類が多いという相違が認められた。また、No.1ではウニ類の殻板が多量に存在し、魚骨は著しく少なかったが、No.2では両者の出現様式が逆であった。両地点の投棄の場としての性格が異なっていたものと考えられる。

今回、コラムサンプリングを実施したことによって、興味ある所見が得られた。第一は、4mmメッシュ未満ではほとんど食料残滓の貝類が得られなかったことである。南島の全ての遺跡に適用できるとは考えられないが、4mm程度のメッシュを利用すれば遺跡全体に対しても、ピックアップ法より著しく精度の高い調査のおこなえる可能性を示しているものと考えられる。第二に、南島の遺跡から報告の少なかったウニ類や魚の鱗が検出された。両者の種の同定や最小推定個体数算出方法等も今後検討せねばならないが、より詳細な漁撈活動の復原ができよう。第三に、微小陸産貝類が多量に出土したことが挙げられる。これらは、遺跡周辺の環境を復原することに有効であろう。今回の結果から、スナガイやオキナワウスカワマイマイが多く出土しており遺跡は砂丘の前面に位置していた可能性の高いことや、オオムシオイやゴマガイ類が少数ながら確認され、遺跡の後背地には非海岸性の森林の存在していたこと等が示唆される。今後より詳細に食料残滓貝類のみならず、出土した貝類の組成に関して報告したい。

註

(1) 黒住耐二「貝類遺存体」「用見崎遺跡」鹿児島県大島郡笠利町教育委員会、1995年。

(2) 小宮 孟「魚類および貝類遺体」「木戸作遺跡（第2次）」千葉県文化財センター、1975年。

第5表 用見崎遺跡のコラムサンプルから出土した貝類遺存体の組成

コラム記号 メッシュサイズ	部 位	コラムサンプルNo.1 (B-2グリッド)							コラムサンプルNo.2 (B-4グリッド)							合計 MNI	合計 MNI
		1 4mm	2 2mm	3 4mm	4 2mm	5 4mm	6 2mm	7 4mm	1 4mm	2 2mm	3 4mm	4 2mm	5 4mm				
軟体動物門 Mollusca																	
腹足綱 Gastropoda (Marine)																	
カサガイ類 Nacellidae																	
ヨメガカサ	Cellana toreuma	1														2	
ベッコウガサ	C. grata															0	
リュウキユウアマガイ	Patelloida striata	1														2	
	周縁	1															
*ヤジリスカシガイ	スカシダイ科 Fissurellidae															1	
	M. cuspidatum	1														0	
*R.ヒメカタベ	リュウテン科 Turbinidae															0	
	Lotina ryukyuensis																
*コシダカササエ	Turbo (Marmarostoma)	1E														2	
	stenogyrum																
	体層																
チョウセンササエ	(operculum)			1		2										4	
	フタ															1	
	破片															0	
ヤコウガイ	(operculum)															0	
カンギク?	T. (Lunatic) marmoratus															1	
*サラサバイ	Lunella granurata ?															0	
	破片															0	
	殻頂															0	
	完形															0	
	ニシキウス科 Trochidae																
*サンショウモドキ	Euchelus lischkei															0	
ニシキウス	Trochus (s.s.) maculatus	1														2	
	完形																
	体層	1														0	
ムラサキウス	T. (s.s.) stellatus															0	
ギンタカハマ	T. (Tectus) pyramis	1														1	
サラサバタイラ	T. (T.) niloticus	1														1	
イシダタミ	Mondonta confusa	3(2H)														4	
	完形																
	殻頂																
	体層	1														1	
*イワカワチグサ	Iwakawatrochus urbanus																
	アモオブネ科 Neritidae																
キハアマガイ	Nerita (Ritena) plicata																
	完形	1														1	
	殻頂																
	内唇																
	外唇																
フトスジアマガイ	N. (R.) costata															0	
ヒメイシダタミ	N. (R.) tristis	4	2		1											7	
アモオブネ																	
	完形																
	殻頂																
	内唇																
	外唇																
リュウキユウアマガイ	N. (R.) insculpta															0	
アモオブネ	N. (Thelyostila) albica																
	完形	55(1E)	27	8												93	
	完形															1B	
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																
	完形																

*は食料でないと考えられる種、MNIは最少推定個体数、二枚貝は左殻/右殻、Aは製品、Bは焼けている個体、Dはカイメン類の穿孔等を受けている死殻、Eは水唇を受けている死殻、Hはオカヤドカリ類の宿貝、・は破片のみの出土を示す。

第6表 見崎遺跡のコラムサンプルから出土した貝類遺存体の組成 (つづき-1)

[illegible]

第7表 用見崎遺跡のコラムサンプルから出土した貝類遺存体の組成(つづきー2)

コラム記号	部位	コラムサンプルNo.1 (B-2グリッド)										コラムサンプルNo.2 (B-4グリッド)										合計	MNI				
		1 4mm	2 2mm	3 70-1	4 4mm	5 2mm	6 1mm	7 4mm	7 2mm	1 4mm	2 2mm	2 70-1	3 4mm	4 2mm	4 70-1	5 4mm	5 2mm	5 70-1									
メッシュサイズ	破片																										
ヤクシマダカラ	内唇(9)	・																									
ハナシヨウダカラ	完形																										
・トミガイ	殻頂欠																										
・ホウシユノタマ	完形																										
ミツカドボラ	完形	1																									
・イササボラ	殻頂																										
オキニシ	完形	2																									
	殻頂	1																									
	内唇		1																								
ツノレイシ	完形																										
	殻頂	1																									
	体附	2																									
	殻軸																										
	外唇																										
ツノツツレイシ	完形	1																									
シロクサキナレイシ	破片																										
シラクモガイ	完形	1																									
	殻頂																										
	体層																										
	外唇	1																									
テツレイシ	完形																										
	殻頂																										
	体層																										
	内唇	1																									
ムラサキイガイレイシ	体層																										
レイシダマシ	内唇	2																									
ウネレイシダマシ	体層																										
コウシレイシダマシ	殻頂																										
	完形		1																								
	殻頂																										
	体層																										
コケレイシダマシ	体層																										
ハナワレイシ	破片	1																									
・フトコロガイ	完形																										
	殻頂																										
	体層																										
	内唇																										
・チガミフトコロ	完形																										
・ムシエヒ	殻頂																										
・ハナマツムシ	体層																										
シマベッコウバイ	完形																										
	体層																										
	外唇	1																									
スジグロホラダマシ	内唇																										
ヒメホラダマシ	殻頂																										

第8表 用見崎遺跡のコラムサンプルから出土した貝類遺存体の組成(つづき—3)

[illegible]

第9表 用見崎遺跡のコラムサンプルから出土した貝類遺存体の組成(つづきー4)

コラム記号 メッシュサイズ	コラム記号	部位	コラムサンプルNo.1 (B-2グリッド)										コラムサンプルNo.2 (B-4グリッド)										合計	MN1	75-1	75-2	75-3	75-4	75-5	75-6	75-7	75-8	75-9	75-10	75-11	75-12	75-13	75-14	75-15	75-16	75-17	75-18	75-19	75-20	75-21	75-22	75-23	75-24	75-25	75-26	75-27	75-28	75-29	75-30	75-31	75-32	75-33	75-34	75-35	75-36	75-37	75-38	75-39	75-40	75-41	75-42	75-43	75-44	75-45	75-46	75-47	75-48	75-49	75-50	75-51	75-52	75-53	75-54	75-55	75-56	75-57	75-58	75-59	75-60	75-61	75-62	75-63	75-64	75-65	75-66	75-67	75-68	75-69	75-70	75-71	75-72	75-73	75-74	75-75	75-76	75-77	75-78	75-79	75-80	75-81	75-82	75-83	75-84	75-85	75-86	75-87	75-88	75-89	75-90	75-91	75-92	75-93	75-94	75-95	75-96	75-97	75-98	75-99	75-100	75-101	75-102	75-103	75-104	75-105	75-106	75-107	75-108	75-109	75-110	75-111	75-112	75-113	75-114	75-115	75-116	75-117	75-118	75-119	75-120	75-121	75-122	75-123	75-124	75-125	75-126	75-127	75-128	75-129	75-130	75-131	75-132	75-133	75-134	75-135	75-136	75-137	75-138	75-139	75-140	75-141	75-142	75-143	75-144	75-145	75-146	75-147	75-148	75-149	75-150	75-151	75-152	75-153	75-154	75-155	75-156	75-157	75-158	75-159	75-160	75-161	75-162	75-163	75-164	75-165	75-166	75-167	75-168	75-169	75-170	75-171	75-172	75-173	75-174	75-175	75-176	75-177	75-178	75-179	75-180	75-181	75-182	75-183	75-184	75-185	75-186	75-187	75-188	75-189	75-190	75-191	75-192	75-193	75-194	75-195	75-196	75-197	75-198	75-199	75-200	75-201	75-202	75-203	75-204	75-205	75-206	75-207	75-208	75-209	75-210	75-211	75-212	75-213	75-214	75-215	75-216	75-217	75-218	75-219	75-220	75-221	75-222	75-223	75-224	75-225	75-226	75-227	75-228	75-229	75-230	75-231	75-232	75-233	75-234	75-235	75-236	75-237	75-238	75-239	75-240	75-241	75-242	75-243	75-244	75-245	75-246	75-247	75-248	75-249	75-250	75-251	75-252	75-253	75-254	75-255	75-256	75-257	75-258	75-259	75-260	75-261	75-262	75-263	75-264	75-265	75-266	75-267	75-268	75-269	75-270	75-271	75-272	75-273	75-274	75-275	75-276	75-277	75-278	75-279	75-280	75-281	75-282	75-283	75-284	75-285	75-286	75-287	75-288	75-289	75-290	75-291	75-292	75-293	75-294	75-295	75-296	75-297	75-298	75-299	75-300	75-301	75-302	75-303	75-304	75-305	75-306	75-307	75-308	75-309	75-310	75-311	75-312	75-313	75-314	75-315	75-316	75-317	75-318	75-319	75-320	75-321	75-322	75-323	75-324	75-325	75-326	75-327	75-328	75-329	75-330	75-331	75-332	75-333	75-334	75-335	75-336	75-337	75-338	75-339	75-340	75-341	75-342	75-343	75-344	75-345	75-346	75-347	75-348	75-349	75-350	75-351	75-352	75-353	75-354	75-355	75-356	75-357	75-358	75-359	75-360	75-361	75-362	75-363	75-364	75-365	75-366	75-367	75-368	75-369	75-370	75-371	75-372	75-373	75-374	75-375	75-376	75-377	75-378	75-379	75-380	75-381	75-382	75-383	75-384	75-385	75-386	75-387	75-388	75-389	75-390	75-391	75-392	75-393	75-394	75-395	75-396	75-397	75-398	75-399	75-400	75-401	75-402	75-403	75-404	75-405	75-406	75-407	75-408	75-409	75-410	75-411	75-412	75-413	75-414	75-415	75-416	75-417	75-418	75-419	75-420	75-421	75-422	75-423	75-424	75-425	75-426	75-427	75-428	75-429	75-430	75-431	75-432	75-433	75-434	75-435	75-436	75-437	75-438	75-439	75-440	75-441	75-442	75-443	75-444	75-445	75-446	75-447	75-448	75-449	75-450	75-451	75-452	75-453	75-454	75-455	75-456	75-457	75-458	75-459	75-460	75-461	75-462	75-463	75-464	75-465	75-466	75-467	75-468	75-469	75-470	75-471	75-472	75-473	75-474	75-475	75-476	75-477	75-478	75-479	75-480	75-481	75-482	75-483	75-484	75-485	75-486	75-487	75-488	75-489	75-490	75-491	75-492	75-493	75-494	75-495	75-496	75-497	75-498	75-499	75-500	75-501	75-502	75-503	75-504	75-505	75-506	75-507	75-508	75-509	75-510	75-511	75-512	75-513	75-514	75-515	75-516	75-517	75-518	75-519	75-520	75-521	75-522	75-523	75-524	75-525	75-526	75-527	75-528	75-529	75-530	75-531	75-532	75-533	75-534	75-535	75-536	75-537	75-538	75-539	75-540	75-541	75-542	75-543	75-544	75-545	75-546	75-547	75-548	75-549	75-550	75-551	75-552	75-553	75-554	75-555	75-556	75-557	75-558	75-559	75-560	75-561	75-562	75-563	75-564	75-565	75-566	75-567	75-568	75-569	75-570	75-571	75-572	75-573	75-574	75-575	75-576	75-577	75-578	75-579	75-580	75-581	75-582	75-583	75-584	75-585	75-586	75-587	75-588	75-589	75-590	75-591	75-592	75-593	75-594	75-595	75-596	75-597	75-598	75-599	75-600	75-601	75-602	75-603	75-604	75-605	75-606	75-607	75-608	75-609	75-610	75-611	75-612	75-613	75-614	75-615	75-616	75-617	75-618	75-619	75-620	75-621	75-622	75-623	75-624	75-625	75-626	75-627	75-628	75-629	75-630	75-631	75-632	75-633	75-634	75-635	75-636	75-637	75-638	75-639	75-640	75-641	75-642	75-643	75-644	75-645	75-646	75-647	75-648	75-649	75-650	75-651	75-652	75-653	75-654	75-655	75-656	75-657	75-658	75-659	75-660	75-661	75-662	75-663	75-664	75-665	75-666	75-667	75-668	75-669	75-670	75-671	75-672	75-673	75-674	75-675	75-676	75-677	75-678	75-679	75-680	75-681	75-682	75-683	75-684	75-685	75-686	75-687	75-688	75-689	75-690	75-691	75-692	75-693	75-694	75-695	75-696	75-697	75-698	75-699	75-700	75-701	75-702	75-703	75-704	75-705	75-706	75-707	75-708	75-709	75-710	75-711	75-712	75-713	75-714	75-715	75-716	75-717	75-718	75-719	75-720	75-721	75-722	75-723	75-724	75-725	75-726	75-727	75-728	75-729	75-730	75-731	75-732	75-733	75-734	75-735	75-736	75-737	75-738	75-739	75-740	75-741	75-742	75-743	75-744	75-745	75-746	75-747	75-748	75-749	75-750	75-751	75-752	75-753	75-754	75-755	75-756	75-757	75-758	75-759	75-760	75-761	75-762	75-763	75-764	75-765	75-766	75-767	75-768	75-769	75-770	75-771	75-772	75-773	75-774	75-775	75-776	75-777	75-778	75-779	75-780	75-781	75-782	75-783	75-784	75-785	75-786	75-787	75-788	75-789	75-790	75-791	75-792	75-793	75-794	75-795	75-796	75-797	75-798	75-799	75-800	75-801	75-802	75-803	75-804	75-805	75-806	75-807	75-808	75-809	75-810	75-811	75-812	75-813	75-814	75-815	75-816	75-817	75-818	75-819	75-820	75-821	75-822	75-823	75-824	75-825	75-826	75-827	75-828	75-829	75-830	75-831	75-832	75-833	75-834	75-835	75-836	75-837	75-838	75-839	75-840	75-841	75-842	75-843	75-844	75-845	75-846	75-847	75-848	75-849	75-850	75-851	75-852	75-853	75-854	75-855	75-856	75-857	75-858	75-859	75-860	75-861	75-862	75-863	75-864	75-865	75-866	75-867	75-868	75-869	75-870	75-871	75-872	75-873	75-874	75-875	75-876	75-877	75-878	75-879	75-880	75-881	75-882	75-883	75-884	75-885
------------------	-------	----	-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

